

# 景気動向調査

No. 128

2022年 7～9月 実績  
2022年 10～12月 見通し



一般財団法人

和歌山社会経済研究所

Wakayama Institute for Social & Economic Development

新型コロナ感染「第7波」の中、景況BSIは前回水準を維持  
今後の見通しでは上昇を見込む

## —調査概要—

### ① 自社景況判断 ※矢印の向きに関しては、裏表紙参照

	2022年 (4～6月)		2022年 (7～9月)		2022年 (10～12月) 見通し	
全産業 (BSI前期差)	↑ (12.3)	景況BSI ▲14.5	→ (0.3)	景況BSI ▲14.2	↔ (1.7)	景況BSI ▲12.5
建設業 (BSI前期差)	↓ (▲12.3)	▲13.4	↑ (12.3)	▲1.1	↑ (6.7)	5.6
製造業 (BSI前期差)	↑ (12.7)	▲10.5	↓ (▲5.7)	▲16.2	↔ (3.8)	▲12.4
商業 (BSI前期差)	↑ (9.0)	▲27.6	↔ (3.3)	▲24.3	↔ (1.0)	▲23.3
サービス業 (BSI前期差)	↑ (22.6)	▲6.5	↓ (▲2.3)	▲8.8	→ (▲0.2)	▲9.0

### ② 特集アンケート 25 頁

#### 【「2022年度における県内事業者の賃上げ」について】

今後の賃上げ余力について「あまりない」、「全くない」が59.8%  
商業では約2割が「全くない」と回答

#### 【「価格転嫁の状況」について】

6月調査に比べて「十分転嫁できている」事業者が13.2%まで増加(7.2ポイント増)  
「希望の3割以上は転嫁できている」との事業者は42.4%(6月調査では29.4%)

#### 【不測の事象が多発する中での事業継続】について】

BCPについて「策定済」の事業者は12.0%まで増加(4年前調査では6.7%)

## 目次

はじめに.....	1
I 自社の景況.....	2
1. 産業別(建設業、製造業、商業、サービス業) .....	4
2. 地域別(和歌山市、紀北地域、紀中地域、紀南地域) .....	11
3. 全国との比較 .....	12
II 経営上の問題点 .....	14
III 自社の業況 (売上高、収益、設備投資、受注高、仕入・販売価格、在庫、資金・労働事情) .....	16
IV 国内の動きと県内の概況 .....	23
V 特集アンケート .....	25
「2022年度における県内事業者の賃上げ」について .....	26
「価格転嫁の状況」について.....	34
「不測の事象が多発する中での事業継続」について .....	35
「経営に関わる情報収集」について .....	36
おわりに.....	37

## 調査の概要

### 1. 調査の対象

(一財)和歌山社会経済研究所が保有する企業名簿より2,000社を抽出。

### 2. 調査方式ならびに調査期間

①調査方法：アンケート方式

②分析方法：判断指数としてBSI（ビジネス・サーベイ・インデックス）を採用。

③調査期間：2022年9月9日～2022年9月30日

BSIとは、企業経営者の業況・業績に関する実績判断や見通しについて「強気」、「弱気」の度合いを表示したもので、「良い」と回答した企業割合から「悪い」と回答した企業割合を引いた値。

### 3. 回収状況

	発送先数	回答社数	回答率 (%)	回答社数（地域別）			
				和歌山市	紀北地域	紀中地域	紀南地域
建設業	200	97	48.5%	46	11	11	29
製造業	400	189	47.3%	66	68	35	20
商業	600	239	39.8%	101	40	47	51
サービス業	800	274	34.3%	129	55	23	67
全産業	2000	799	40.0%	342	174	116	167

# はじめに

## 1. 調査の目的

県内企業の実態と動向を把握し、現在の経済環境が和歌山県内の各企業にどのような影響を及ぼしているのか、さらに、今後この状況はどのようになると予想されるのかを調査し、調査結果を企業経営の参考資料としていただくことを目的とする。

## 2. 前回調査(2022年4~6月期)における県内経済の状況

### 新型コロナ感染「第6波」の収束から、景況BSIは上昇するも 「原材料価格高騰」や「第7波」への懸念強まる

4~6月期の県内景況BSIは建設業を除く全ての産業で景況BSIが上昇し、全体では12.3ポイントの上昇となった。前期(1~3月期)は、新型コロナ感染「第6波」により、人出状況の悪化や感染・濃厚接触に従業員の欠勤等により事業活動に大きな影響が及んだ。4~6月期は「第6波」が収束に向かい、大きく落ち込んでいた景況BSIは上昇に転じた。特にサービス業や小売業で景況BSIが改善した。主な経営課題として、「原材料価格の高騰」を挙げる事業者が半年間で約10ポイント増加し、全体の約3割を占めている。

## 3. 2022年7~9月期の国内外経済情勢

### ウィズコロナへの動きが進む中、コロナ禍で落ち込んだ国内経済は緩やかに持ち直している ただし、物価上昇、世界経済の減速への懸念が強まっている

2022年7~9月期の国内外経済情勢を振り返ると、日本国内では7月以降、再び新型コロナ感染が拡大した(新型コロナ感染「第7波」)。オミクロン変異株の派生型「BA.5」の感染力は強く、8月19日には全国で26万人を超える新規感染者が確認された。ただし、これまでの感染拡大期とは異なり、緊急事態宣言等の行動制限措置は発出されず、9月には感染者の療養期間が短縮され、感染者の情報把握の手法も簡略化されるなど、経済活動の維持を重視する動きが強まった。

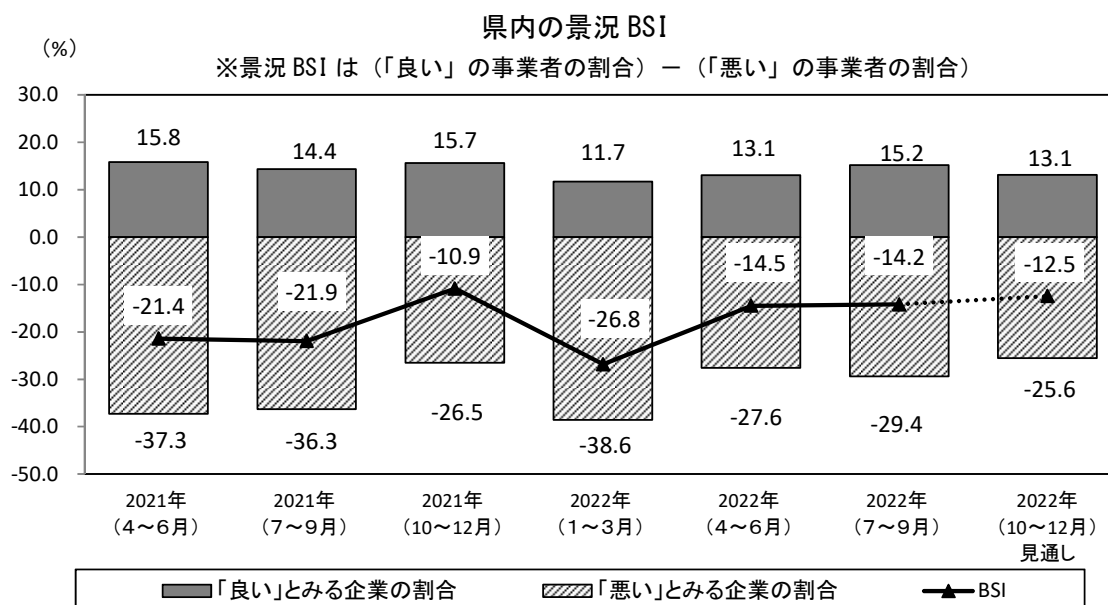
世界の情勢を見ると、コロナ禍で落ち込んだ経済活動の持ち直し、ウクライナ危機などを背景として、供給網の混乱・供給不足が起これ、物価上昇が急激に進んでいる。9月の米国消費者物価指数は前年比8.2%の上昇となり、9か月連続で8%を超える上昇幅となった。米連邦準備理事会(FRB)は、3回連続で0.75%の利上げを行い、インフレ抑制に動いている。欧州中央銀行を含めて、世界各国が同様の動きをとるなか、日本銀行は現行の金融政策を維持している。このため、日米金利差の拡大観測から、円相場は急激に値下がりし、10月20日には一時、1ドル=150円の水準となった(7月初旬は135円台)。円安進行は原材料・燃料等の輸入コストの上昇を招き、資源高と相まって、企業物価指数(9月)は過去最高を更新している。国内企業は製造業を中心に、物価上昇への懸念を強めており、日本銀行が発表した9月の短観調査によると、大企業製造業の景況感3期連続での悪化となった。IMF(国際通貨基金)による、2023年の世界経済の成長率見通しも下方修正が続いており、景気の先行き減速感が強まっている。ウィズコロナへの動きが進む中で、人出状況は改善に向かい、個人消費は旅行・外食を中心に持ち直しているものの、物価上昇に比して、賃金上昇の動きは弱い。

このような状況の中で、日本政府は物価高などに対する総合経済対策として39兆円規模の財政支出を予定している。観光需要喚起策「全国旅行支援」による国内旅行客の増加、入国に係る水際対策の緩和に伴う訪日外国人客の増加も予想される。コロナ禍で落ち込んだ個人消費の持ち直しへの期待が高まる一方で、世界経済の減速や急激な物価上昇の影響については、十分留意する必要がある。

# I 自社の景況

＝回答企業の経営者が自社の景況をどうみているかを集計＝

「自社の景況」は、日本銀行が全国規模で行っている企業短期経済観測調査（短観）において企業の景況感を示す業況判断指数（DI）と同様の基準で、県内企業の景況 BSI を調査したもの。



**新型コロナ感染「第7波」に見舞われるも、景況 BSI は横ばいで推移  
「原材料価格高騰」への懸念は強いものの、見通しの景況 BSI は上昇を見込む**

## ○ 7～9 月期の景況 BSI は前回から横ばい

7～9 月期の県内景況 BSI は前回からほぼ横ばいで推移した。7 月以降、新型コロナ感染が再び拡大し、8 月には 1 日当たりの新規感染者数が過去最高を更新した。ただし、行動制限は発出されず、お盆の帰省客を含めて、8 月中旬の人出状況は前年を上回った。業種によって業況に明暗は見られるものの、以前のような感染拡大期における業況の大幅悪化は見られなかった。「原材料価格高騰」への懸念は強いが、一部で販売価格への転嫁の動きに進捗が見られる。

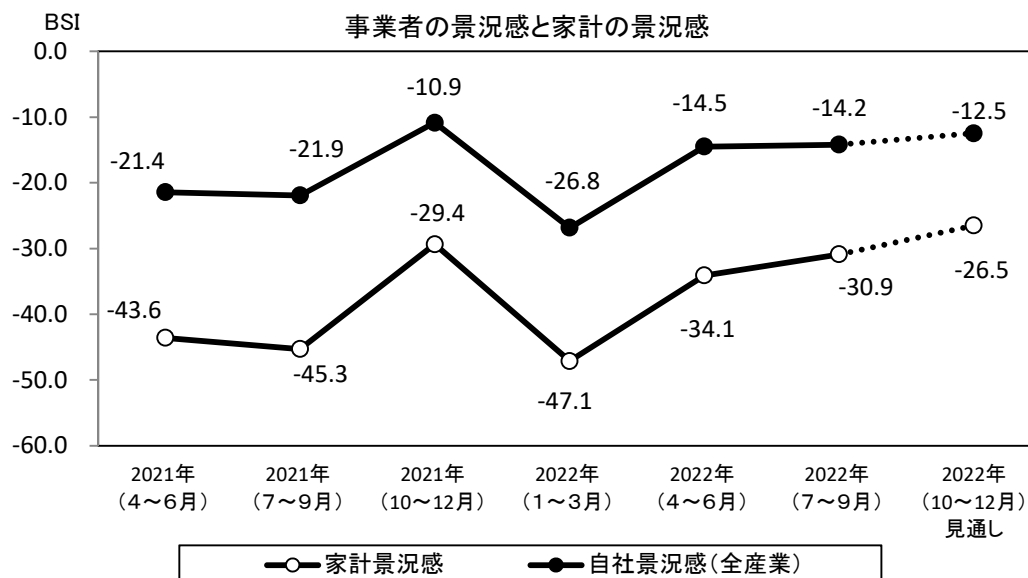
## ○ 10～12 月期（見通し）の景況 BSI は上昇を見込む

10～12 月期（見通し）の県内景況 BSI は 1.7 ポイント上昇。サービス業を除く全ての産業で景況 BSI が上昇する。世界的な金融引き締めの流れの中で、世界景気の下振れリスクが高まり、急激な円安進行を背景に、物価の上昇が続いているが、「全国旅行支援」などの需要喚起策への期待もあり、県内景況感は改善を見込む。

## (参考) 家計の景況感と広義の建設業の景況感

### 家計の景況感

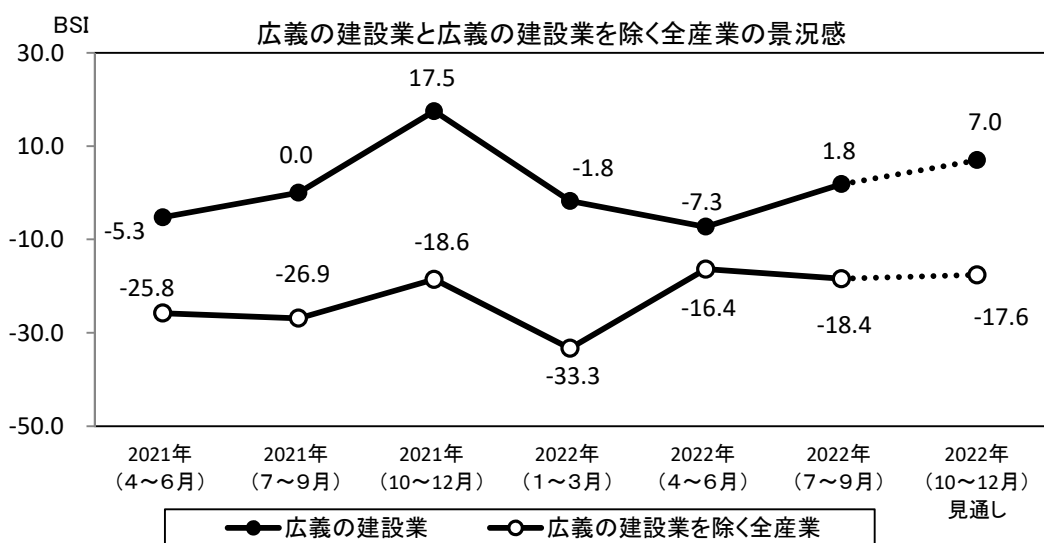
#### 家計の景況感が2期連続で上昇



※「家計景況感」とは、和歌山県内家計消費の状況が経営に大きく影響する事業者の景況BSIのことで、該当事業者は小売業とサービス業の一部(教養・娯楽、生活関連サービス業)である。今回の該当事業者数は小売業117社、サービス業22社の計139社。

### 広義の建設業の景況感

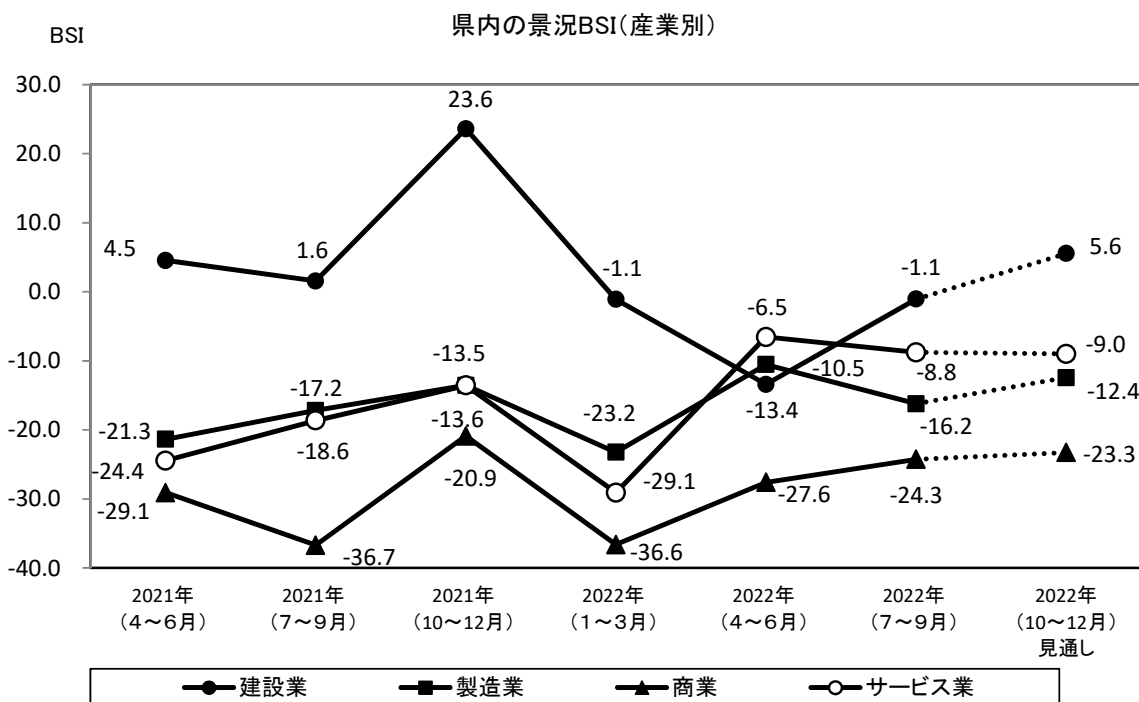
#### 「広義の建設業」は反転上昇



※「広義の建設業」とは、建設業ならびに建設業を主な得意先とする業種(窯業・土石品製造業、測量・設計業務等)のこと。今回の該当事業者数は「広義の建設業」が167社、「広義の建設業を除く全産業」は632社の計799社。

# 1. 産業別（建設業、製造業、商業、サービス業）

ここでは、建設業、製造業、商業、サービス業の各産業別に景況を報告する。また、製造業、商業、サービス業に関しては、分野別にその景況を合わせて報告する。



## 《建設業》

回答事業者数: 97 社

景況 BSI の推移【 前回 ▲13.4 → 今回 ▲1.1 → 見通し 5.6 】

(▲11.1) ※前回調査での7~9月期の見通し

### 景況 BSI は 12.3 ポイント上昇 「原材料価格の高騰」、「人材不足」が課題

7~9月期の景況 BSI は 12.3 ポイント上昇した（上昇は3期ぶり）。県内建設市場については、コロナ禍で落ち込んだ新築住宅着工戸数が持ち直しの動きを見せる中、公共工事請負金額については、減少傾向にある。7~9月期については、電気工事業等の設備工事業で景況感を「悪い」とする事業者が減少し、景況 BSI は上昇したが、売上高 BSI は低い水準にあり、約半数の事業者が売上高は「減少」していると回答している。さらに、「原材料価格の高騰」、「人材不足」に直面する事業者も多い。

10~12月期（見通し）の景況 BSI については、6.7 ポイント上昇する模様。鉄骨工などの職別工事業、設備工事業で景況感を「良い」とする事業者が増加する見通し。

## 《製造業》

回答事業者数: 189社 景況 BSI の推移【 前回 ▲10.5 → 今回 ▲16.2 → 見通し ▲12.4 】  
(▲13.3) ※前回調査での 7~9 月期の見通し

### 一部の業種で景況感を「良い」とする事業者が増加するも 売上不振、原材料価格の高騰に直面する事業者が多く、景況 BSI は下降

7~9 月期の景況 BSI は 5.7 ポイント下降（下降は 2 期ぶり）。金属加工等の鉄鋼・金属製品製造業や繊維製品製造業で景況 BSI が上昇する一方、機械・機械部品製造業、印刷業、紙・紙加工品製造業などで景況 BSI が下降した。このような状況の中で、原材料等の仕入価格が「上昇」しているとする事業者が 8 割強を占める一方で、販売価格に転嫁している事業者は約 3 割にとどまっており、「原材料価格の高騰」を経営上の問題点とする事業者が約 4 割を占めている。

10~12 月期（見通し）に関しては、景況 BSI は 3.8 ポイント上昇する模様。

以下では、製造業の各分野の景況について報告する。

### 食品

回答事業者数: 29 社（※梅干等の漬物製造業、調味料・酒類製造業等）  
景況 BSI の推移【 前回 0.0 → 今回 ▲10.3 → 見通し ▲17.4 】  
(▲3.6) ※前回調査での 7~9 月期の見通し

### 仕入価格の上昇が続く中 景況 BSI は再び下降

7~9 月期の景況 BSI は下降した。前期に比べて売上高や収益が「減少」したとする事業者が増え、景況感を「悪い」とする事業者が全体の 3 割強を占めた。仕入価格の上昇が続く中で、販売価格への転嫁に向かう事業者も徐々に増加している。

10~12 月期（見通し）の景況 BSI についても、下降する。販売価格を引き上げようとする事業者も複数あり、食料品製造業における価格転嫁が進むかどうか動向が注目される。

### 繊維製品

回答事業者数: 27 社（※和歌山市のニット生地メーカー、橋本市のパイル織物メーカー等）  
景況 BSI の推移【 前回 ▲30.3 → 今回 ▲12.5 → 見通し ▲19.2 】  
(▲25.8) ※前回調査での 7~9 月期の見通し

### 景況 BSI は 2 期連続で上昇 販売価格への転嫁が進んでいる

7~9 月期の景況 BSI は 2 期連続で大きく上昇。景況感を「悪い」とする事業者が減少傾向にあり、景況 BSI はコロナ禍前の水準まで回復。仕入価格の上昇が続く中、販売価格への転嫁を進める事業者は約 4 割を占める。依然として、売上不振を経営上の問題点とする事業者は多く、全体としての業況には弱さも見られる。

10~12 月期（見通し）の景況 BSI は下降する模様で、今後の動向に注意が必要。

**木材・木工製品**

回答事業者数: 21 社 (※建具製造、製材業等)

景況 BSI の推移【 前回 ▲21.1 → 今回 ▲33.3 → 見通し ▲10.0 】  
(▲26.3) ※前回調査での 7~9 月期の見通し**景況 BSI は 2 期連続で下降  
資金繰り「悪化」事業者が約 3 割を占める**

7~9 月期の景況 BSI は 2 連続で下降した。原材料価格の上昇が続く中、販売価格への転嫁を実施する事業者は一部にとどまる。資金繰りが悪化している事業者も約 3 割を占めている。経営上の問題点として「売上不振」を挙げる事業者は 4 割を超えており、業況は極めて厳しい。

10~12 月期 (見通し) の景況 BSI は上昇に転じる模様。

**化学製品**

回答事業者数: 18 社

景況 BSI の推移【 前回 ▲14.3 → 今回 ▲11.1 → 見通し ▲5.6 】  
(4.8) ※前回調査での 7~9 月期の見通し**景況 BSI は上昇  
急激な円安進行もあり、原材料価格高騰の影響が懸念される**

7~9 月期の景況 BSI は上昇。ただし、収益が「減少」しているとする事業者は約 7 割を占めており、原材料価格の高騰が収益性を圧迫している。経営上の問題点として「原材料価格の高騰」を挙げる事業者が 8 割強を占めており、極めて大きな問題点となっている。

10~12 月期 (見通し) の景況 BSI は引き続き上昇する模様だが、円安が急激に進行しており、輸入コストがさらに高まれば、業況が悪化する可能性が高く、今後の動向に注意を要する。

**鉄鋼・金属製品**

回答事業者数: 23 社

景況 BSI の推移【 前回 4.8 → 今回 21.7 → 見通し 18.2 】  
(14.3) ※前回調査での 7~9 月期の見通し**景況 BSI は大きく上昇  
受注状況が改善し、景況感を「良い」とする事業者が 3 割を占める**

7~9 月期の景況 BSI は大きく上昇。景況感を「良い」とする事業者が 3 割強を占めており、業況は大きく改善している。仕入価格の上昇が続く中で、価格転嫁ができていない事業者は一部にとどまるものの、受注高の増加が景況感の改善に寄与している。

10~12 月期 (見通し) の景況 BSI は下降するものの、極めて高い水準を維持する。ただし、世界的な金融引き締めの影響で、世界経済の今後の見通しには弱さが見られる。世界景気の減速が、県内生産活動に与える影響については注意を要する。

**機械・機械部品**

回答事業者数: 34 社

景況 BSI の推移【 前回 3.4 → 今回 ▲17.6 → 見通し ▲6.1 】  
(▲23.1) ※前回調査での 7~9 月期の見通し**景況 BSI は大きく下降  
先行きに関しても、世界経済の減速の影響が懸念される**

7~9 月期の景況 BSI は大きく下降。前期は 3 年ぶりのプラス水準まで回復していた景況 BSI だが、「売上不振」、「原材料価格の高騰」、「人材不足」など様々な要因から、景況感が悪化したとする事業者が複数見られた。

10~12 月期 (見通し) の景況 BSI は改善を見込むものの、世界的な金融引き締めの影響で、世界経済の今後の見通しには弱さが見られる。世界景気の減速が、県内生産活動に与える影響については注意を要する。



## その他の製造業

回答事業者数: 37 社 (※印刷業、窯業・土石品製造業、プラスチック製品製造業等)  
景況 BSI の推移【 前回 ▲13.9 → 今回 ▲38.9 → 見通し ▲34.3 】  
(▲22.9) ※前回調査での 7~9 月期の見通し

### 景況 BSI は大きく下降 見通しを含めて、業況は厳しい

7~9 月期の景況 BSI は大きく下降。景況感を「悪い」とする事業者が約 4 割を占めており、また、収益が「減少」したとする事業者は約 7 割を占めた。業種別では、印刷業、紙器製品製造業、生活雑貨製品製造業などで景況感を「悪い」とする事業者が目立つ。

10~12 月期 (見通し) については、景況 BSI はやや上昇するものの、極めて低い水準が続く。

## 《商業》

回答事業者数: 239 社 景況 BSI 値の推移【 前回 ▲27.6 → 今回 ▲24.3 → 見通し ▲23.3 】  
(▲23.2) ※前回調査での 7~9 月期の見通し

### 新型コロナ感染が拡大するも、景況 BSI は上昇 卸売業、小売業ともにコロナ禍前の水準まで戻りつつある

7~9 月期の景況 BSI は 3.3 ポイント上昇。上昇は 2 期連続。7 月以降、県内では再び新型コロナ感染が拡大し、8 月中旬には 1 日の新規感染者数が約 2,300 人にまで増加した。8 月上旬は人出状況が悪化したものの、行動制限は発出されず、お盆帰省客を含めて、人出は前年を上回った。売上高・収益については、依然として「減少」との回答が約半数を占めており、業況は厳しいものの、卸売業、小売業ともにコロナ禍前の水準まで戻りつつある。

10~12 月期 (見通し) の景況 BSI は 1.0 ポイント上昇する模様。全国旅行支援などの需要喚起策もあり、業況の改善が期待される一方で、商品仕入価格の上昇が続いており、収益圧迫が懸念される。

以下では、卸売業ならびに小売業の景況について報告する。また、県内の百貨店、スーパーの販売動向については、24 頁を参照されたい。

## 卸売業

回答事業者数: 122 社  
景況 BSI 値の推移【 前回 ▲19.2 → 今回 ▲16.5 → 見通し ▲18.3 】  
(▲22.6) ※前回調査での 7~9 月期の見通し

### 景況 BSI は 2 期連続で上昇 売上高を中心に業績状況は持ち直し傾向にある (収益性の改善は低調)

7~9 月期の景況 BSI は 2 期連続で上昇。機械器具卸売業を中心に景況感を「良い」とする事業者が増加した。コロナ禍で大きく落ち込んだ業績状況は持ち直しの動きを続けている。ただし、仕入価格の上昇から収益性の改善については緩やかな動きにとどまっており、特に、食料品卸売業の業況は低調なままだ。

10~12 月期 (見通し) の景況 BSI は下降に転じる。機械器具卸売業の景況 BSI が大幅な下降に転じる模様で、その動向には注意を要する。県内事業者の業況は改善傾向にあるものの、世界経済の減速懸念から、県内製造業の先行き見通しに関しては弱さが見られ、機械器具卸売業を中心に、その影響が懸念される。

**小売業**

回答事業者数: 117 社

景況 BSI 値の推移【 前回 ▲37.4 → 今回 ▲32.5 → 見通し ▲28.6 】  
(▲24.0) ※前回調査での7~9月期の見通し**景況 BSI は 2 期連続で上昇  
先行きに関しては物価上昇の影響に留意**

7~9月期の景況 BSI は 2 期連続での上昇となった。コロナ禍前の水準に戻りつつあるものの、依然として、その水準は低く、業況は総じて厳しい。衣料品小売業や生活・文化用品小売業を中心に、景況感を「悪い」とする事業者が目立つ。仕入価格が上昇する中で、収益が「減少」している事業者は全体の約 6 割を占めている。

10~12 月期（見通し）の景況 BSI はさらに上昇する模様だが、資源価格の高止まりや急激な円安進行を背景に、物価上昇が続いている。物価上昇を受けて、家計の節約志向が高まれば、県内小売事業者への悪影響は避けられず、今後の業況については注意を要する。

**《サービス業》**回答事業者数: 274 社 景況 BSI 値の推移【 前回 ▲6.5 → 今回 ▲8.8 → 見通し ▲9.0 】  
(▲6.0) ※前回調査での7~9月期の見通し**新型コロナ感染が拡大するも、景況 BSI は底堅さを維持  
人手不足が経営課題に**

7~9月期の景況 BSI は 2.3 ポイント下降。7 月以降、県内では再び新型コロナ感染が拡大し、8 月中旬には 1 日の新規感染者数が約 2,300 人にまで増加した。8 月上旬は人出状況が悪化したものの、行動制限は発出されなかったことから、旅館・ホテル業や飲食業では、以前の感染拡大期のような業況悪化が見られなかった。このような状況の中で、運輸業、旅館・ホテル業、医療・福祉、教養・娯楽サービス業では人手不足感が高まっており、大きな経営課題となっている。

10~12 月期（見通し）の景況 BSI はほぼ横ばいでの推移となる模様。全国旅行支援などの需要喚起策もあり、業況の改善が期待される一方で、原材料価格の高騰や人手不足の強まりが懸念される。

以下では、サービス業の各分野の景況について報告する。

**不動産業**

回答事業者数: 35 社 (※物品賃貸業含む)

景況 BSI 値の推移【 前回 ▲6.3 → 今回 ▲5.7 → 見通し 0.0 】  
(▲12.1) ※前回調査での7~9月期の見通し**景況 BSI は見通しを含めて高い水準を維持**

7~9月期の景況 BSI は 1.6 ポイント上昇。景況 BSI の水準は他業種に比べて高く、不動産取引業を中心に業況は底堅い。経営上の問題点として「設備老朽化」を挙げる事業者が不動産賃貸業を中心に 3 割弱を占めている。

10~12 月期の景況 BSI は 5.7 ポイント上昇し、0.0 となる模様。景況感を「悪い」とする事業者は 1 割弱と極めて少なく、引き続き底堅い業況が維持される。

**運輸業**

回答事業者数: 41 社 (※旅客運輸業、倉庫業含む)

景況 BSI 値の推移【 前回 ▲15.6 → 今回 ▲26.8 → 見通し ▲15.4 】  
(▲9.1) ※前回調査での 7~9 月期の見通し**景況 BSI は大幅下降****売上不振、燃料高、従業員のコロナ感染などが業況悪化要因と考えられる**

7~9 月期の景況 BSI は大きく下降。新型コロナ感染「第 7 波」に見舞われる中、県内景気がほぼ横ばいで推移するも、運輸業に関しては大幅な景況 BSI の下降となった。売上高・収益が「減少」したとする事業者が増加する一方で、人手不足感が急激に強まっている。経営上の問題点として「売上不振」と合わせて、「原材料価格の高騰」、「人材不足」とする事業者も多く、様々な要因から業況が悪化している可能性が高い。

10~12 月期（見通し）に関しては、景況 BSI は上昇する模様。ウィズコロナへの動きが進む中で、人出状況は改善しており、運輸業への好影響も期待される。

**旅館・ホテル業**

回答事業者数: 28 社

景況 BSI 値の推移【 前回 ▲17.4 → 今回 0.0 → 見通し ▲18.5 】  
(0.0) ※前回調査での 7~9 月期の見通し**新型コロナ感染「第 7 波」に見舞われるも、旅行需要は増加  
景況 BSI は大きく上昇**

7~9 月期の景況 BSI は大幅上昇。白浜町・田辺市の複数の事業者が景況感を「良い」と回答している。新型コロナ感染「第 7 波」に見舞われるも、緊急事態宣言などの行動制限は発出されず、県内の 7~8 月の観光客数はコロナ前の水準までほぼ回復しつつある。

10~12 月期（見通し）については、景況 BSI は下降する見通し。ただし、観光需要喚起策「全国旅行支援」が開始されるなど、国内旅行客の増加が期待されるうえに、コロナ禍に伴う国内入国への水際対策も緩和されており、訪日外国人客の持ち直しも期待される。

**飲食業**

回答事業者数: 15 社

景況 BSI 値の推移【 前回 ▲26.7 → 今回 ▲33.3 → 見通し ▲20.0 】  
(▲13.3) ※前回調査での 7~9 月期の見通し**新型コロナ感染「第 7 波」に見舞われるも、売上高・収益「増加」の事業者は増えた  
ただし、事業コストは増加しており、景況 BSI は低い水準にある**

7~9 月期は、売上高・収益が「増加」したとする事業者が増えたものの、景況 BSI は下降した。新型コロナ感染「第 7 波」に見舞われるも、緊急事態宣言などの行動制限は発出されず、人出状況は以前ほど悪化してはいないが、飲食業の業況については、引き続き厳しい状況にある。食材価格の高騰、電気料金・ガス料金の高騰など、事業コストも増加しており、収益性の悪化が懸念される。

10~12 月期（見通し）の景況 BSI は上昇を見込むが、その水準は依然として低い。

**医療・福祉**

回答事業者数: 43 社

景況 BSI 値の推移【 前回 0.0 → 今回 ▲2.3 → 見通し ▲2.6 】  
(4.7) ※前回調査での7~9月期の見通し**新型コロナ感染「第7波」に見舞われる中、景況 BSI は上昇  
人手不足感が極めて高い水準にある**

7~9月期の景況 BSI は下降するも、底堅い。1~3月期はオミクロン株の感染拡大により、高齢者の福祉サービス利用減や濃厚接触等による従業員の欠勤が発生し、景況 BSI は下降していたが、「第7波」においては、業況を悪化させてはいない。ただし、人手不足感は過去最高水準にまで高まっており、大きな経営上の問題点となっている。

10~12月期（見通し）の景況 BSI はほぼ横ばいで推移する。

**生活関連サービス業**

回答事業者数: 11 社（※葬祭業、クリーニング業、理美容業等）

景況 BSI 値の推移【 前回 ▲25.0 → 今回 ▲45.5 → 見通し ▲11.1 】  
(▲40.0) ※前回調査での7~9月期の見通し**景況 BSI は大きく下降  
原材料価格・燃料価格の高騰の影響が懸念される**

7~9月期の景況 BSI は大きく下降し、業況は極めて厳しい状況にある。クリーニング業、理美容業で景況感を「悪い」とする事業者が目立つ。これらの業種では、原材料価格や燃料価格が高騰しており、収益性が圧迫されている。

10~12月期（見通し）の景況 BSI は上昇する模様。ただし、急激な円安進行に伴い、燃料価格の高騰は続く模様で、政府の総合経済対策の実施が期待される。

**教養・娯楽サービス業**

回答事業者数: 11 社（※スポーツ関連サービス、旅行代理店業など）

景況 BSI 値の推移【 前回 ▲15.4 → 今回 0.0 → 見通し ▲18.2 】  
(▲8.3) ※前回調査での7~9月期の見通し**景況 BSI は上昇するも  
見通しでは再び下降**

7~9月期の景況 BSI は 15.4 ポイント上昇。新型コロナ感染「第7波」に見舞われも、ウィズコロナへの動きが進んだこともあり、景況感を「悪い」とする事業者は一部に限定された。ただし、10~12月期（見通し）の景況 BSI は下降に転じ、売上高・収益が「減少」とする事業者が増える模様で、業況は一進一退の状況にある。

**その他のサービス業**

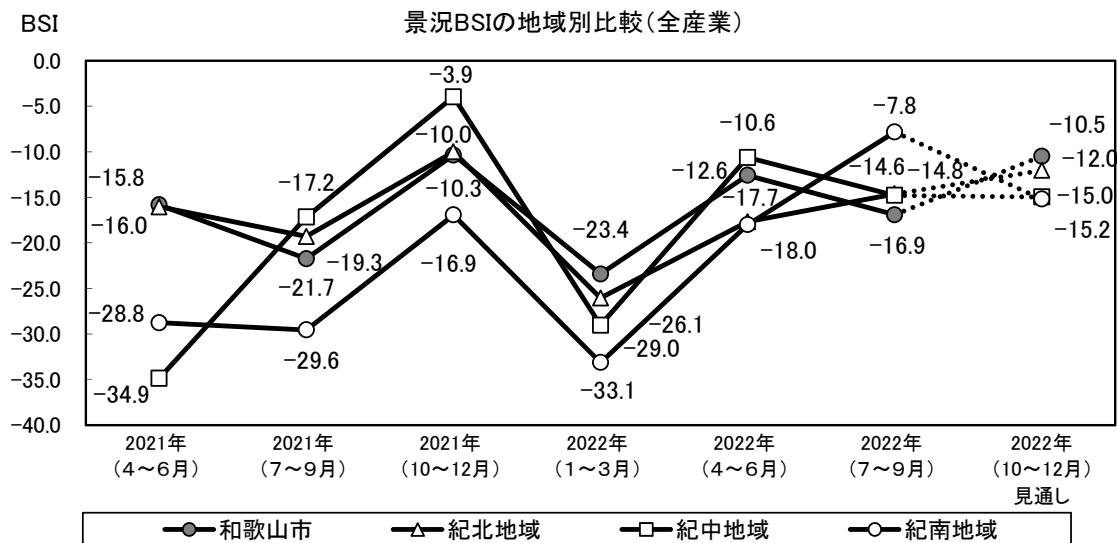
回答事業者数: 90 社（※建物サービス、情報通信業、人材派遣業、建設サービス等）

景況 BSI 値の推移【 前回 4.4 → 今回 0.0 → 見通し ▲5.8 】  
(▲3.4) ※前回調査での7~9月期の見通し**景況 BSI は比較的高い水準で推移**

7~9月期の景況 BSI は下降するも、比較的高い水準で推移している。情報通信業、建設サービス業（測量・設計等）、産業廃棄物処理業などで景況感を「良い」とする事業者が複数見られた。

10~12月期（見通し）の景況 BSI は下降する模様だが、その水準は他業種に比べて高い。

## 2. 地域別(和歌山市、紀北地域、紀中地域、紀南地域) ※地域区分は裏表紙参照



地域別回収状況

	発送先数	回答社数	回答率 (%)	回答社数 (地域別)			
				和歌山市	紀北地域	紀中地域	紀南地域
建設業	200	97	48.5%	46	11	11	29
製造業	400	189	47.3%	66	68	35	20
商業	600	239	39.8%	101	40	47	51
サービス業	800	274	34.3%	129	55	23	67
全産業	2000	799	40.0%	342	174	116	167

### 新型コロナ感染「第7波」に見舞われるも 紀北地域、紀南地域の景況BSIは上昇

#### 和歌山市 景況BSIは4.3ポイント下降

7~9月期の景況BSIは4.3ポイントの下降となった。製造業、サービス業で景況BSIが下降した。10~12月期(見通し)の景況BSIは6.4ポイント上昇する。

#### 紀北地域 景況BSIは3.1ポイント上昇

7~9月期の景況BSIは3.1ポイント上昇。製造業、小売業、サービス業で景況BSIが上昇した。10~12月期(見通し)の景況BSIは2.6ポイント上昇する模様で、引き続き製造業、小売業、サービス業で景況BSIが上昇する。

#### 紀中地域 景況BSIは4.2ポイント下降

7~9月期の景況BSIは4.2ポイントの下降となった。建設業、製造業、サービス業で景況BSIが下降した。10~12月期(見通し)の景況BSIについても0.2ポイントの下降となる模様。

#### 紀南地域 景況BSIは10.2ポイントの大幅上昇

7~9月期の景況BSIは前回に引き続き2桁の大幅上昇となった。製造業を除く全ての産業で景況BSIが上昇した(特に建設業では30ポイントを超える上昇)。10~12月期(見通し)の景況BSIは7.4ポイントの下降を見込む。

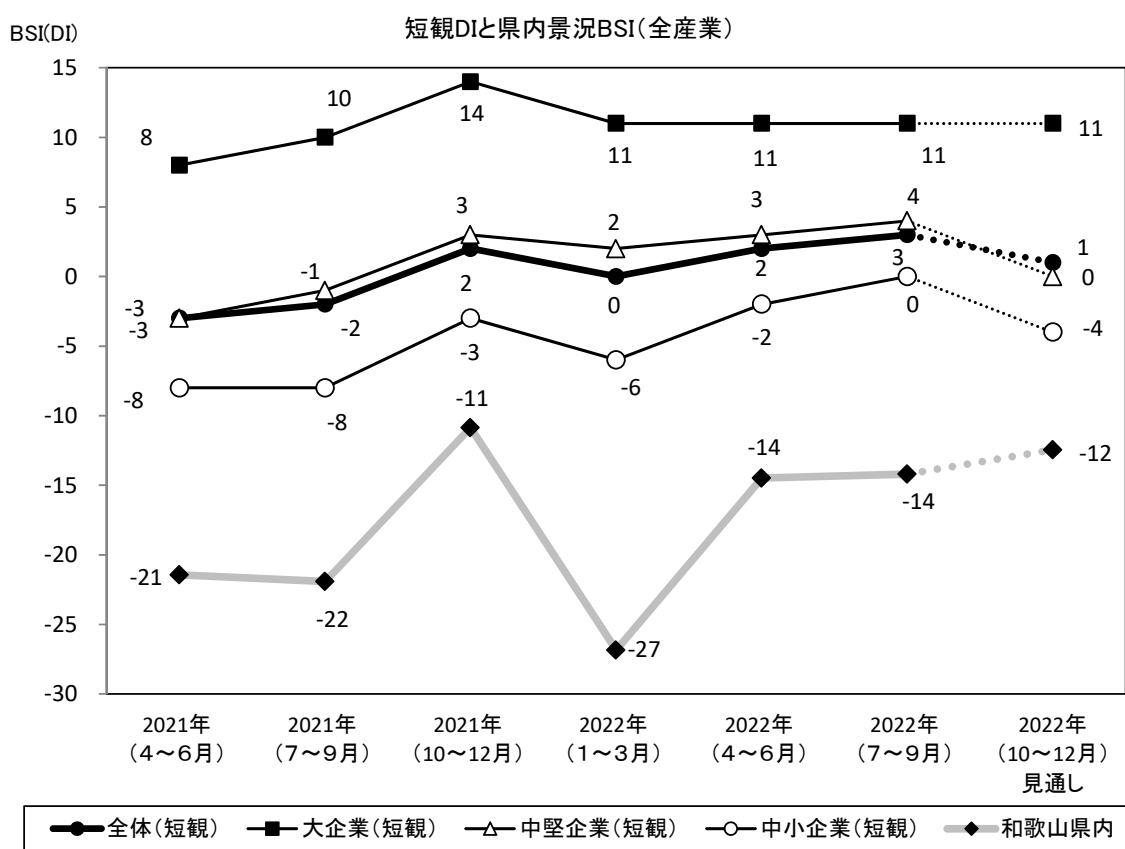
### 3. 全国との比較

=日銀短観DIと比較した県内景況BSI=

**短観DIは1ポイント上昇、県内景況BSIは横ばい**

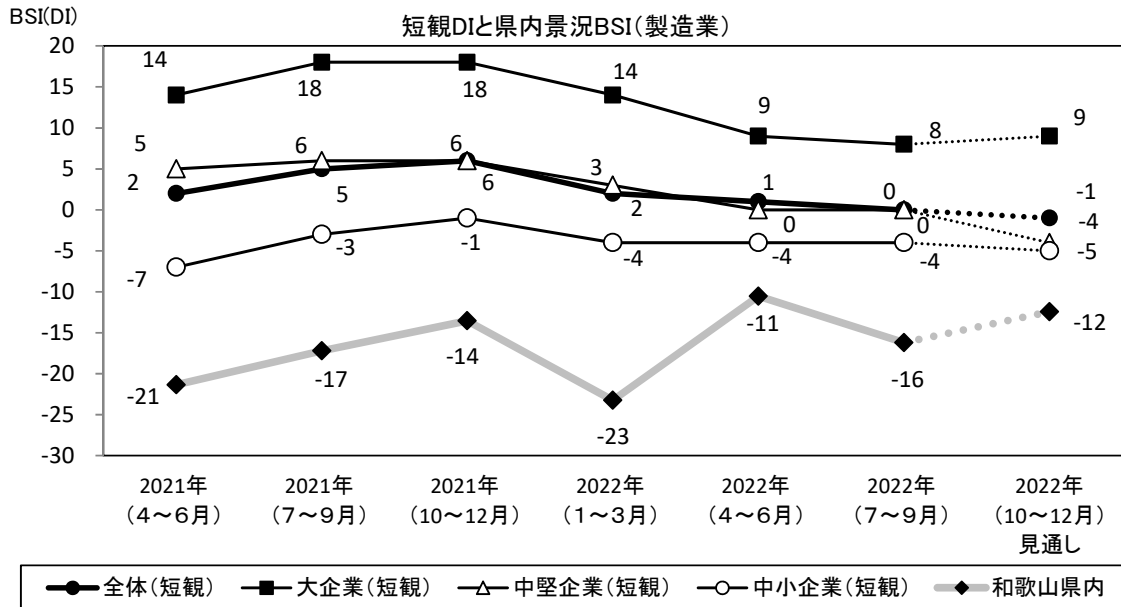
**全産業** 短観DIが1ポイント上昇する中、県内景況BSIは横ばい

全体の短観DI（以下、短観DI）は、2期連続で上昇した（上昇幅は1ポイント）。新型コロナウイルス感染が再拡大する中で、非製造業で短観DIが1ポイント上昇する一方で、製造業については、原材料価格の高騰などの影響もあり、1ポイントの下降となった。県内景況BSIは前回から横ばいで推移。



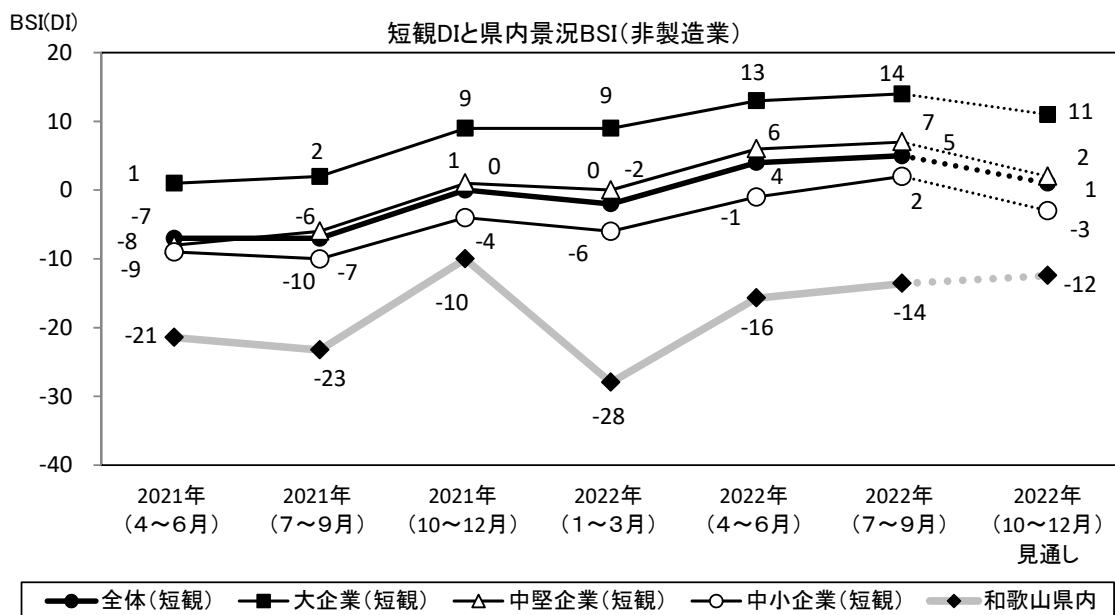
**製造業** 短観DIは1ポイント、県内景況BSIは5ポイントの下降

原材料価格の高騰の影響もあり、全体の短観DI（以下、短観DI）は1ポイント、県内景況BSIは5ポイントの下降となった。業種別では、短観DI、県内景況BSIともに、金属加工業種で景況感が改善する一方、機械・機械部品製造業では景況感が悪化した。



**非製造業** 短観DIは1ポイント、県内景況BSIは2ポイントの上昇

新型コロナ感染が再拡大する中、ウィズコロナへの動きも進み、旅館・ホテル業等の対個人サービス業を中心に景況感が改善し、短観DIは1ポイント、県内景況BSIは2ポイントの上昇となった。ただし、運輸業については、短観DIで改善が進む中、県内景況BSIは低迷している。



## II 経営上の問題点

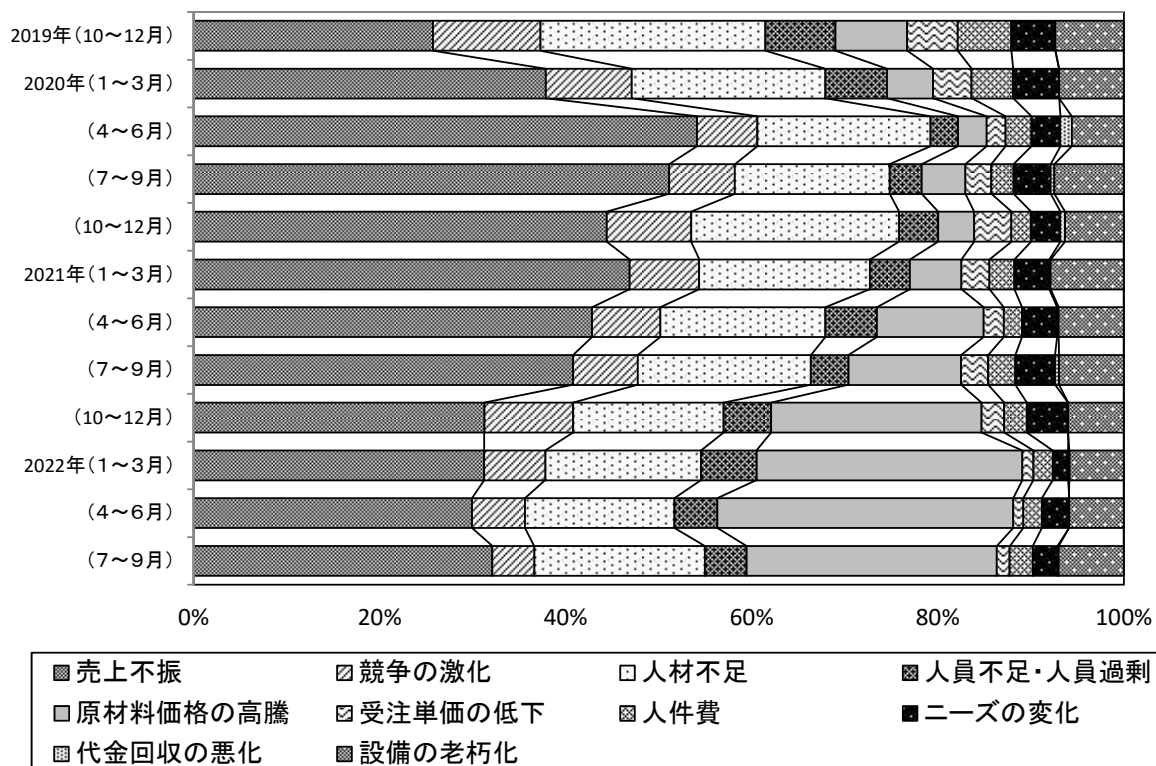
**「売上不振」が再び1位に  
「原材料価格の高騰」、「人材不足」が続く**

- 1位は「売上不振」。前回から0.2ポイント増加
- 2位は「原材料価格の高騰」で、前回から4.9ポイント減少
- 3位は「人材不足」で、前回から2.3ポイント増加

経営上の問題点（主なもの）

	1 位	2 位	3 位	4 位
<b>今回</b> (2022年7~9月)	<b>売上不振</b> <b>32.1%</b>	<b>原材料価格の高騰</b> <b>26.9%</b>	<b>人材不足</b> <b>18.3%</b>	<b>設備の老朽化</b> <b>5.9%</b>
前回 (2022年1~3月)	原材料価格の高騰 31.8%	売上不振 29.9%	人材不足 16.0%	設備の老朽化 5.9%
前々回 (2021年10~12月)	売上不振 31.2%	原材料価格の高騰 28.6%	人材不足 16.7%	競争の激化 6.6%

経営上の問題点の推移



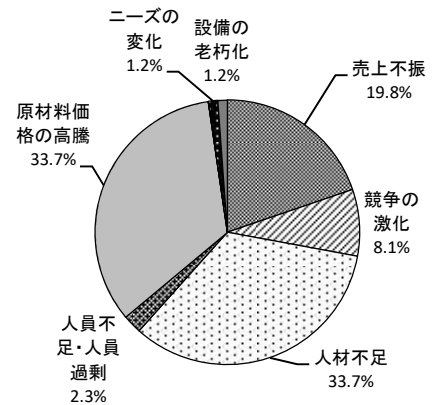


● 産業別経営上の問題点（上位3項目）

（ ）内の丸数字は前回順位、数値は前回調査値

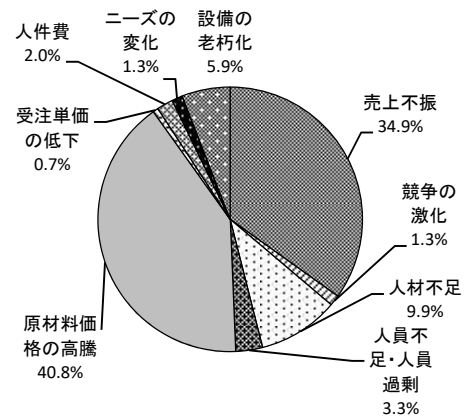
【建設業】 「原材料価格の高騰」、「人材不足」が1位

1. 原材料価格の高騰 …… 33.7% (①37.2%)
1. 人材不足 …… 33.7% (②31.4%)
3. 売上不振 …… 19.8% (③17.4%)
4. 競争の激化 …… 8.1% (④8.1%)



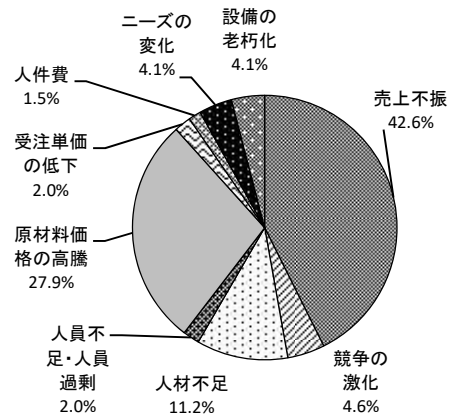
【製造業】 「原材料価格の高騰」が1位

1. 原材料価格の高騰 …… 40.8% (①46.2%)
2. 売上不振 …… 34.9% (②27.6%)
3. 人材不足 …… 9.9% (③10.3%)



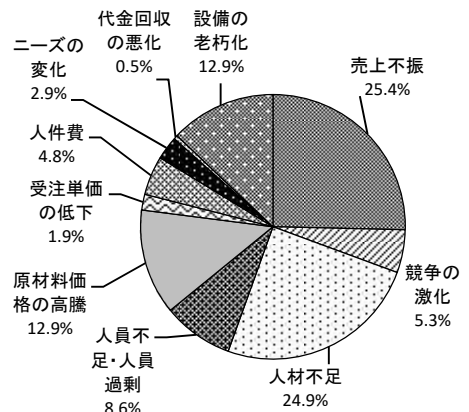
【商業】 「売上不振」が依然として多い

1. 売上不振 …… 42.6% (①39.2%)
2. 原材料価格の高騰 …… 27.9% (②34.9%)
3. 人材不足 …… 11.2% (③10.6%)



【サービス業】 「売上不振」との回答が6期連続減

1. 売上不振 …… 25.4% (①28.6%)
2. 人材不足 …… 24.9% (②18.9%)
3. 原材料価格の高騰 …… 12.9% (③16.6%)
3. 設備の老朽化 …… 12.9% (④10.6%)

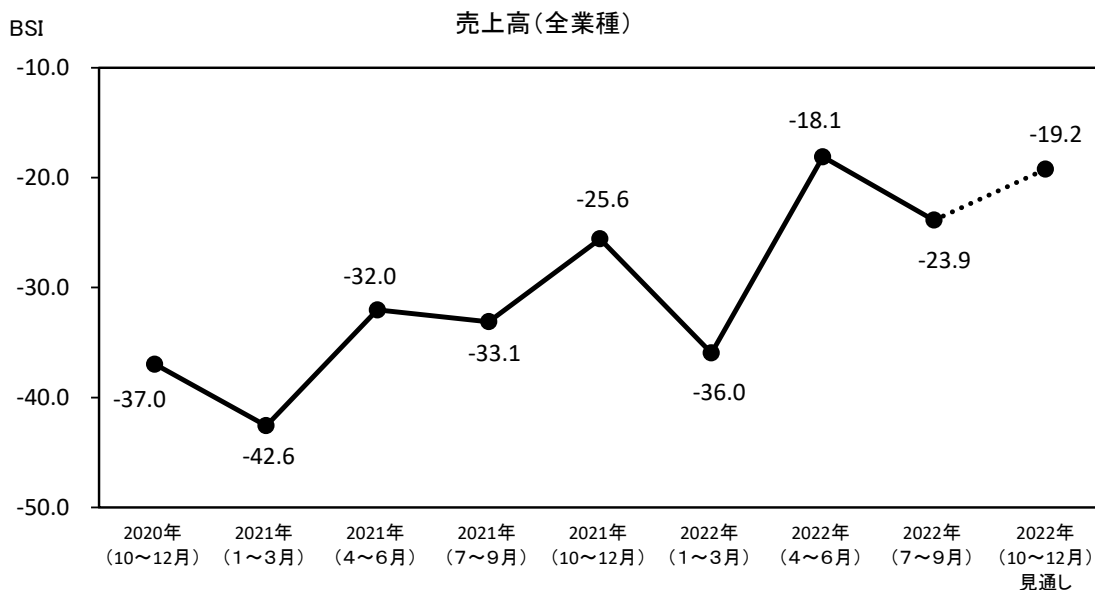


### Ⅲ 自社の業況 =回答企業の経営者が自社の業況をどうみているか=

#### 1. 売上高

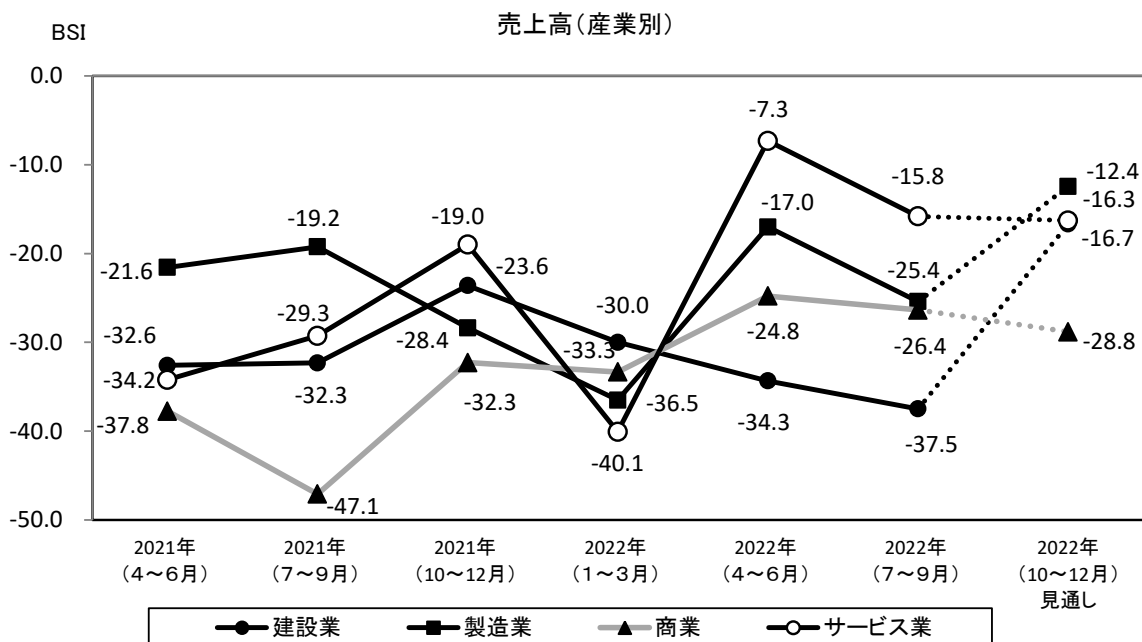
全産業

実績は2期ぶりに下降。見通しは上昇する模様



産業別 (建設業、製造業、商業、サービス業)

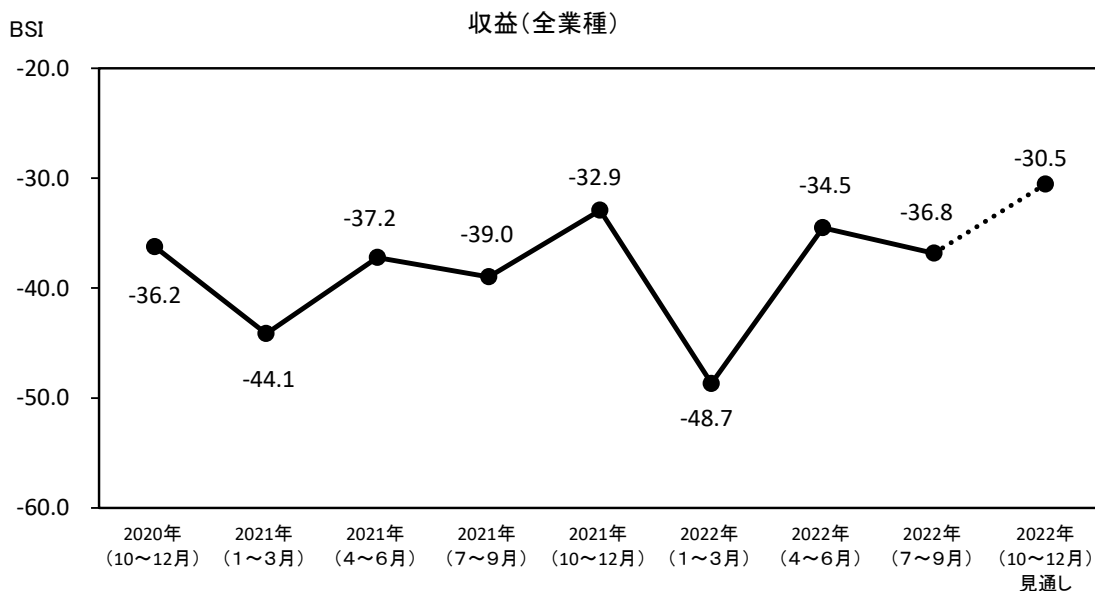
実績において、全ての産業で下降



## 2. 収益

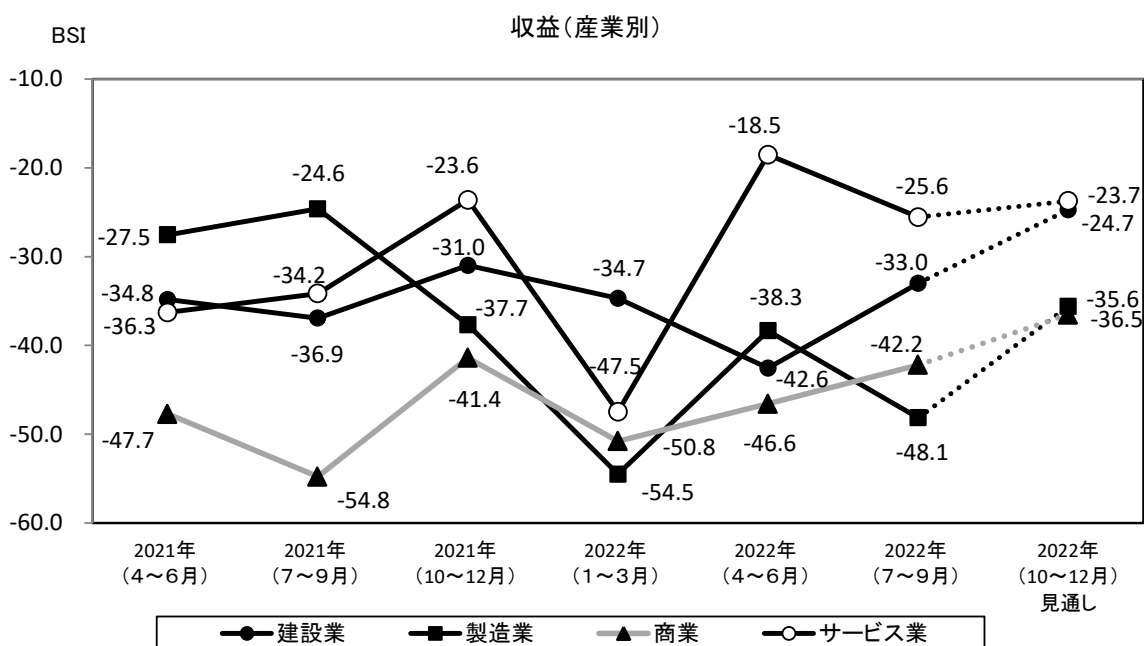
全産業

実績は2期ぶりに下降



産業別(建設業、製造業、商業、サービス業)

実績において、商業・建設業で上昇

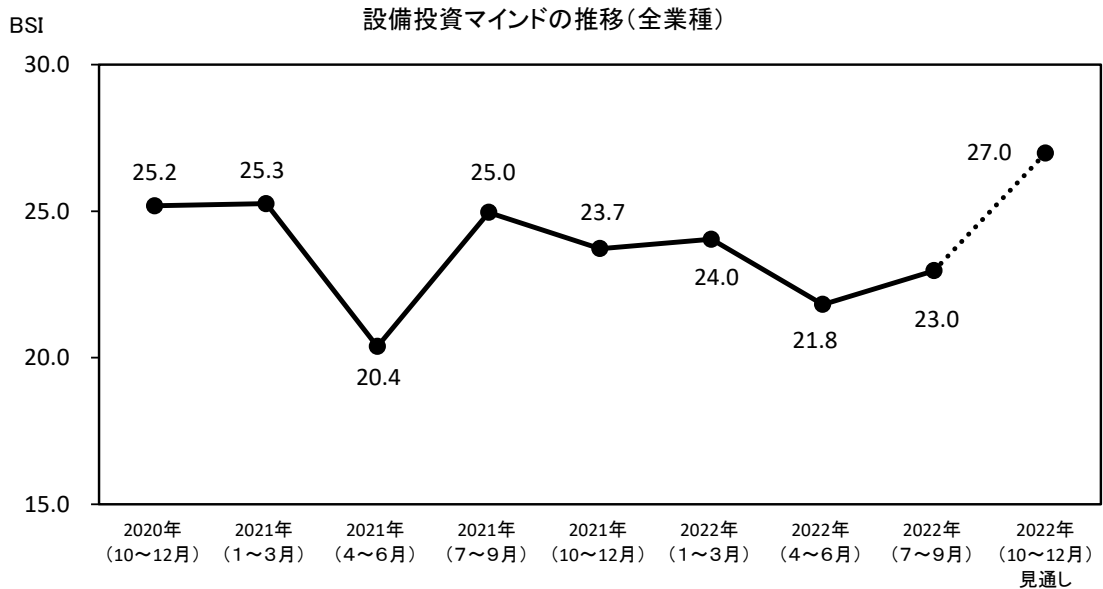


### 3. 設備投資

全産業

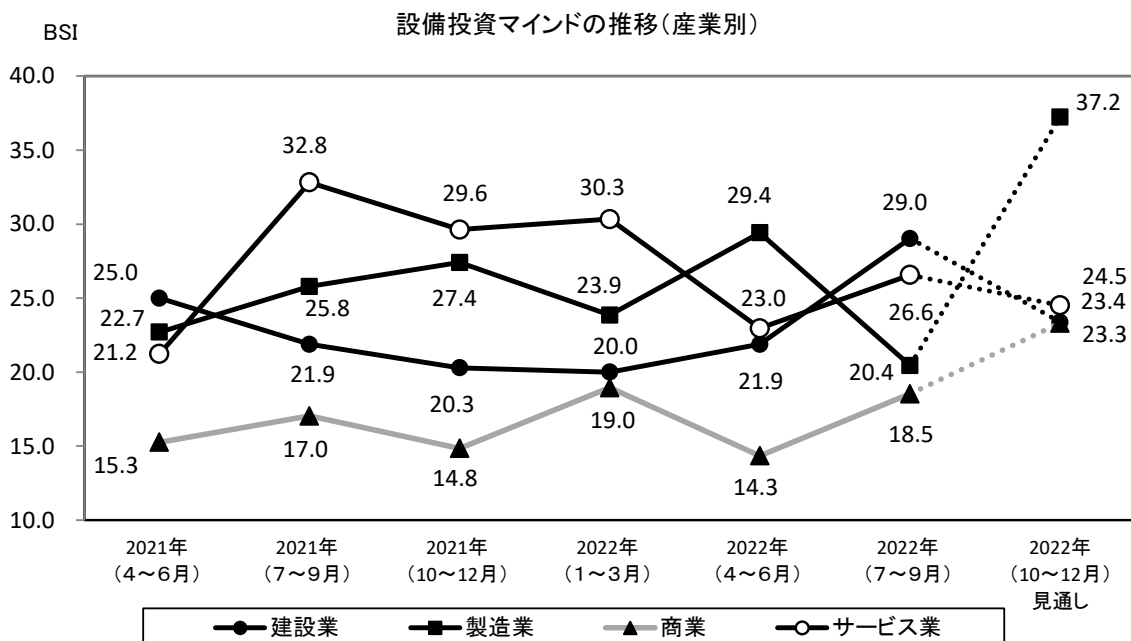
#### 設備投資マインド(※)は実績において上昇

※設備投資マインドとは、当期において設備投資を実施した事業者の割合。



産業別(建設業、製造業、商業、サービス業)

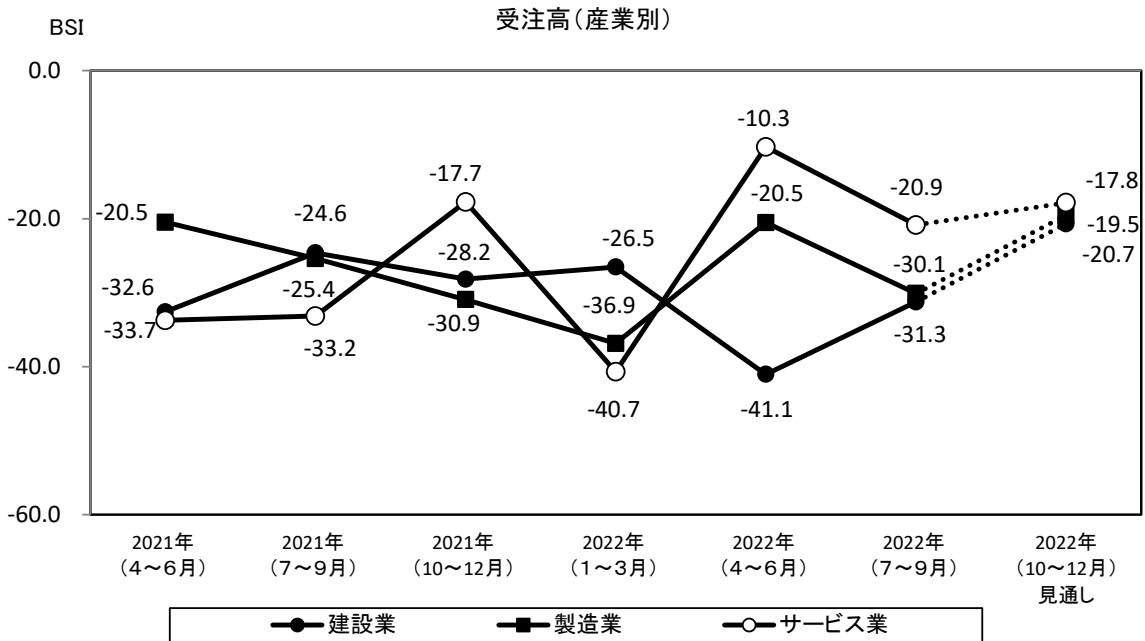
#### 実績では、製造業で大きく下降(見通しでは反転上昇を見込む)



#### 4. 受注高

産業別（建設業、製造業、サービス業）

見通しでは、全ての産業で上昇を見込む



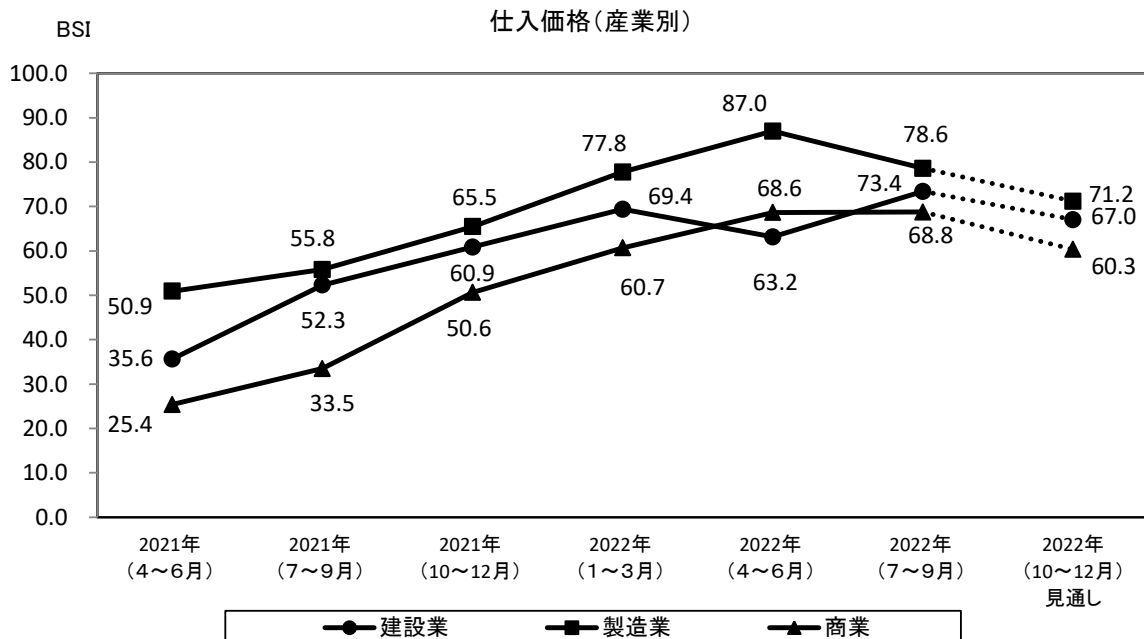
※製造業における中分類別の BSI 値の推移は当研究所HP ([www.wsk.or.jp](http://www.wsk.or.jp))に掲載

#### 5. 仕入価格

産業別（建設業、製造業、商業）

実績において、製造業は下降に転じるも、高い水準が続く

※仕入価格 BSI は（「上昇」の事業者の割合）－（「下落」の事業者の割合）



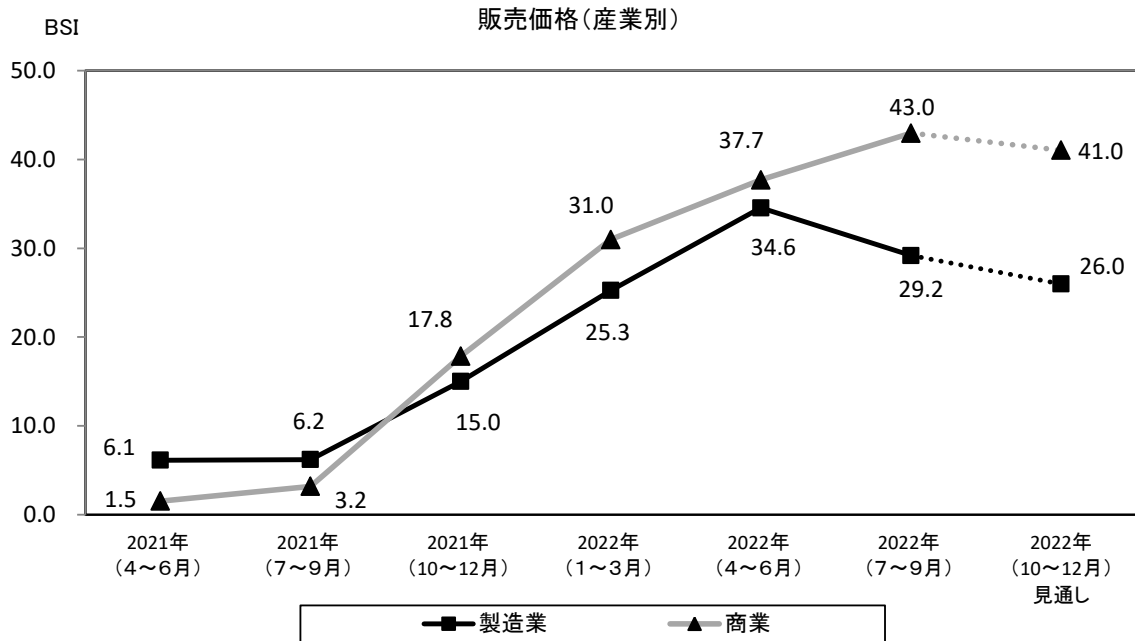
※製造業における中分類別の BSI 値の推移は当研究所HP ([www.wsk.or.jp](http://www.wsk.or.jp))に掲載

## 6. 販売価格

産業別（製造業、商業）

### 実績において、製造業で反転下降

※販売価格 BSI は（「上昇」の事業者の割合）－（「下落」の事業者の割合）



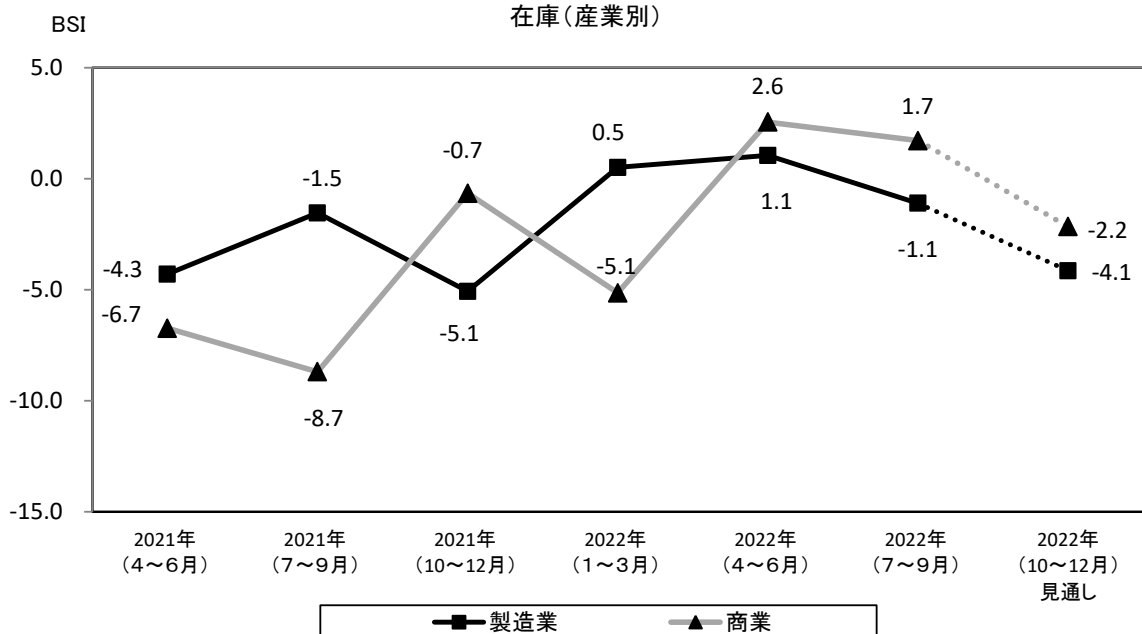
※製造業における中分類別の BSI 値の推移は当研究所 H P ([www.wsk.or.jp](http://www.wsk.or.jp))に掲載

## 7. 在庫

産業別（製造業、商業）

### 実績・見通しともに、製造業で下降

※在庫 BSI は（「増加」の事業者の割合）－（「減少」の事業者の割合）

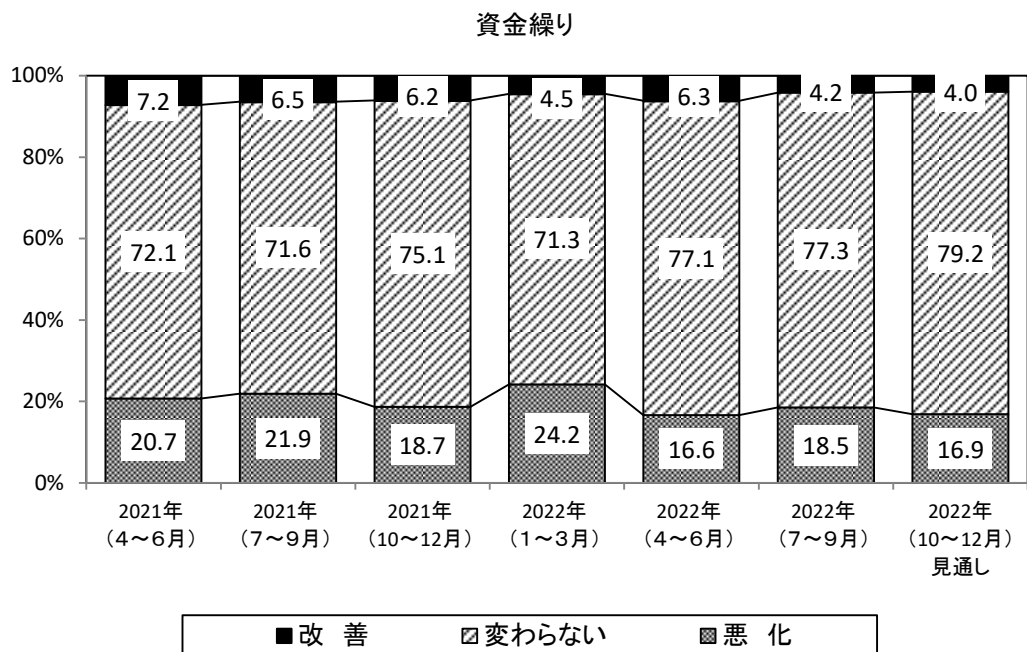


※製造業における中分類別の BSI 値の推移は当研究所 H P ([www.wsk.or.jp](http://www.wsk.or.jp))に掲載

## 8. 資金事情

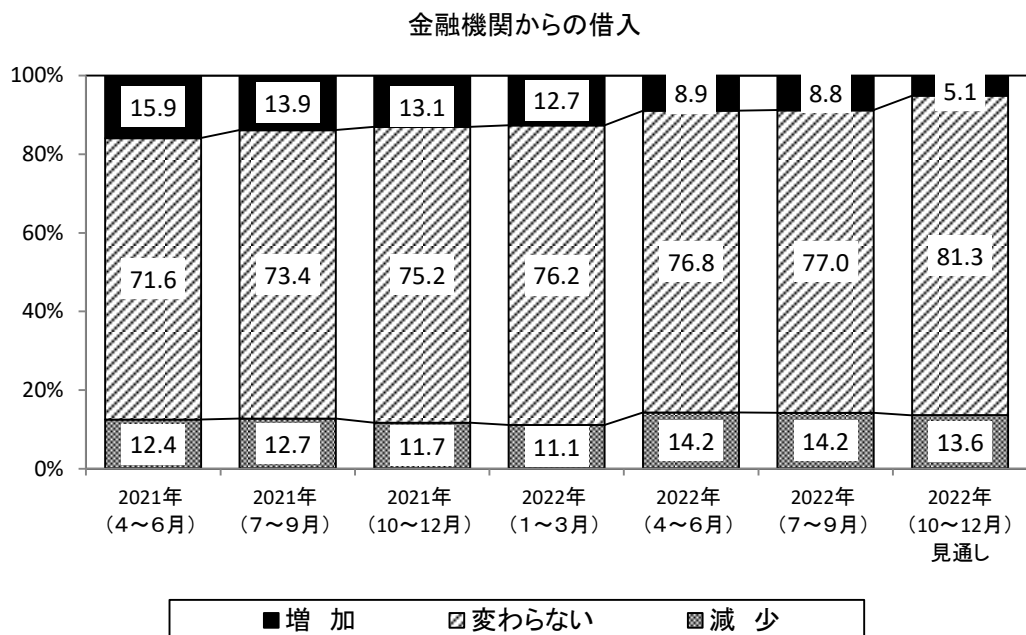
### 資金繰り

実績において、「悪化」が1.9ポイント増加



### 金融機関からの借入

実績において、「増加」は8期連続で減少

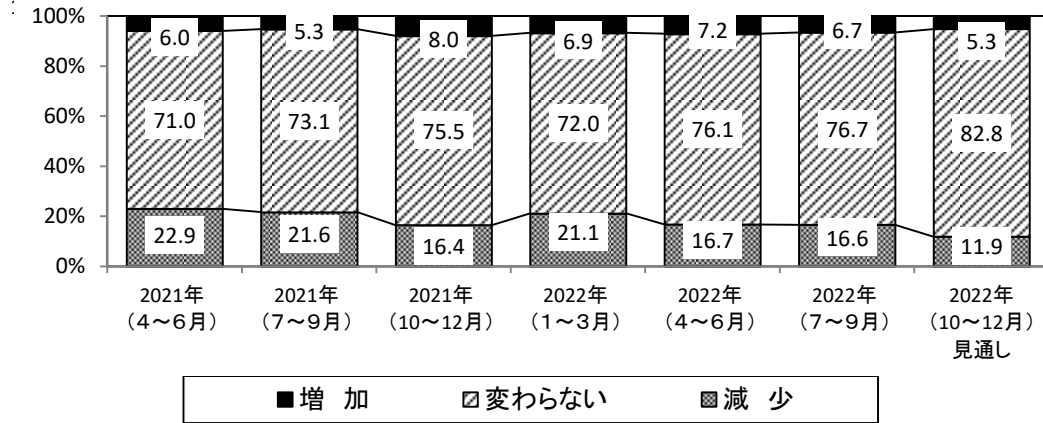


## 9. 労働事情

### 所定外労働時間数

実績・見通しともに「減少」が減る

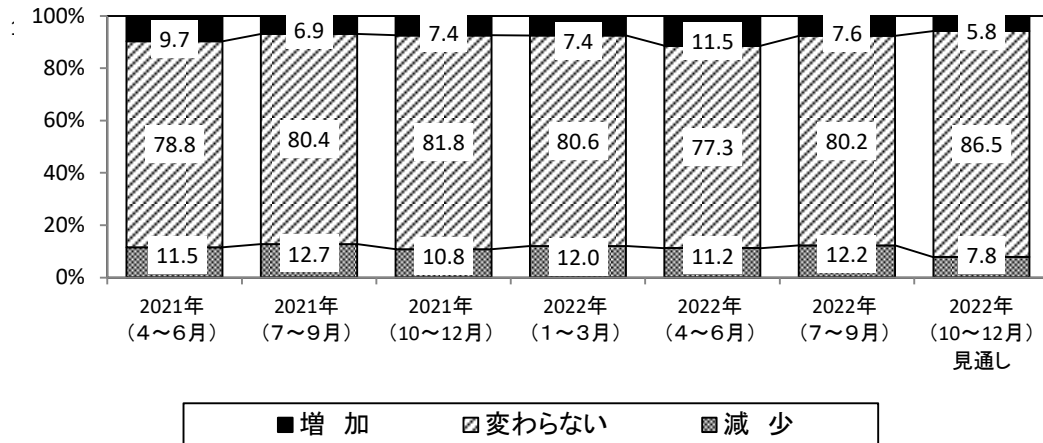
所定外労働時間数



### 雇用者数の推移

実績において、再び「減少」が「増加」を上回った

雇用者数の推移

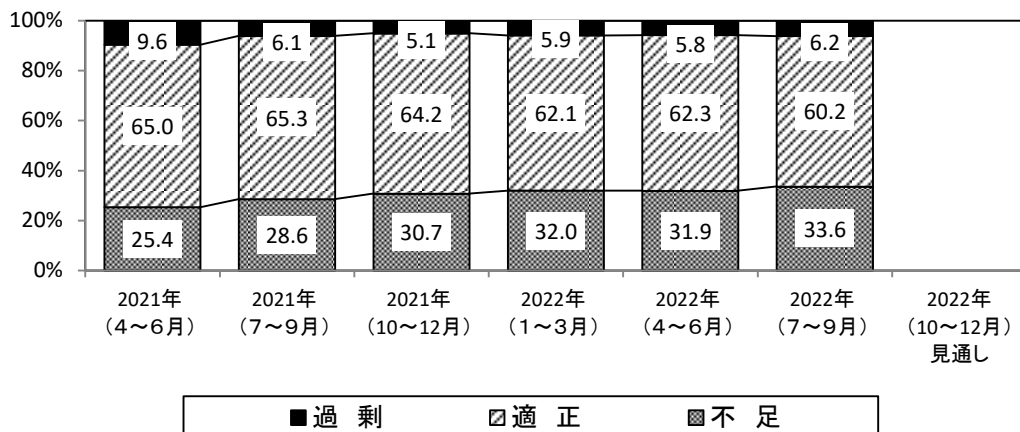


### 雇用者数の適正度

※見通しについては質問していないため、表記していない

「不足」とする回答が33.6%を占める

雇用者数の適正度





## IV 国内の動きと県内の概況

### 和歌山県経済は、生産活動が持ち直す一方で コロナ感染の再拡大の影響が見られる

内閣府の月例経済報告（2022年9月30日公表）において、「景気は、緩やかに持ち直している」との判断が維持された。

以下では、「全国の情勢」、「和歌山県の情勢」を主要経済指標（主に8月の値）に基づき報告する。

- 生産** 鉱工業生産指数において鉄鋼業が約2年ぶりの高水準
- 個人消費** コロナ感染拡大で消費動向に影響及ぶ
- 住宅投資** 新設住宅着工戸数（8月）は、前年比18.5%増となり、3か月ぶりに前年を上回った
- 公共投資** 公共工事請負金額（8月）は前年比12.5%増となり、2か月ぶりに前年を上回った
- 雇用** コロナ感染の再拡大もあり、有効求人倍率（8月）は0.04ポイント低下

#### ○ グラフで見る和歌山県経済指標（データ基準月：8月 ※鉱工業生産指数は7月）

	鉱工業生産指数(2015年=100)								有効求人倍率		充足率	
	全国	和歌山県	鉄鋼	機械	化学	石油石炭	繊維	食料品	全国(倍)	和歌山県(倍)	パートタイム除く(%)	パートタイム(%)
2017年	103.1	109.2	107.1	120.1	102.8	100.7	105.7	117.1	1.50	1.27	22.2	19.3
2018年	104.2	109.2	109.5	117.9	101.2	98.1	106.1	134.7	1.61	1.34	19.6	18.1
2019年	101.2	102.7	110.3	100.8	100.5	95.4	106.6	138.0	1.60	1.41	17.6	17.1
2020年	90.9	88.9	81.3	85.0	92.6	76.5	105.0	119.5	1.18	1.05	16.2	18.8
2021年	95.7	88.4	78.1	89.9	85.6	68.6	101.8	139.8	1.13	1.09	15.2	18.2
2021年7月	98.1	96.0	81.9	92.9	96.2	98.0	106.8	139.7	1.14	1.11	14.0	17.0
8月	96.2	90.3	80.0	90.9	91.9	68.8	95.9	130.7	1.15	1.11	14.1	14.6
9月	89.9	86.8	75.9	89.8	86.8	59.4	104.1	132.7	1.15	1.13	14.5	17.3
10月	91.8	74.2	82.0	68.7	71.6	50.2	88.1	134.7	1.16	1.13	14.6	15.5
11月	96.4	82.3	76.7	87.5	79.0	26.0	100.0	143.5	1.17	1.13	15.7	15.7
12月	96.6	90.4	79.0	86.9	86.3	97.4	102.8	146.1	1.17	1.14	11.9	13.4
2022年1月	94.3	93.0	83.0	87.1	98.0	93.6	98.0	119.8	1.20	1.16	12.0	12.7
2月	96.2	92.4	80.9	86.1	89.1	90.4	104.0	137.1	1.21	1.13	14.8	17.8
3月	96.5	90.1	73.0	92.7	90.8	97.7	101.4	150.7	1.22	1.13	18.7	21.9
4月	95.1	92.7	81.4	93.9	89.7	110.3	95.3	139.2	1.23	1.14	14.4	18.2
5月	88.0	93.6	87.0	92.2	83.7	113.2	99.2	151.4	1.24	1.17	17.0	19.7
6月	96.1	101.8	85.4	120.4	94.9	110.6	109.7	150.5	1.27	1.17	17.6	18.5
7月	96.9	95.7	91.3	94.7	89.0	115.6	105.3	141.7	1.29	1.17	13.4	16.4
8月	99.5								1.32	1.13	15.1	16.8

	百貨店・スーパー販売額		新車登録台数		新設住宅着工戸数		公共工事請負額				
	販売額(億円)	全国(前年比)	和歌山県(前年比)	登録台数(台)	全国(前年比)	和歌山県(前年比)	着工戸数(戸)	全国(前年比)	和歌山県(前年比)	請負金額(億円)	和歌山県(前年比)
2017年	1,237	0.0	-1.3	23,043	4.5	3.4	4,539	-0.3	-5.6	1,292.6	-9.5
2018年	1,211	0.0	-2.1	22,509	-1.3	-2.3	4,935	-2.3	8.7	1,487.6	15.1
2019年	1,188	-1.1	-1.9	22,456	-1.9	-0.2	5,188	-4.0	5.1	1,585.1	6.6
2020年	1,133	-5.4	-5.4	20,217	-12.3	-10.0	4,514	-9.9	-13.0	1,847.2	16.5
2021年	1,093	0.9	-3.7	18,949	-2.9	-6.3	4,591	5.0	1.7	1,806.3	-2.2
2021年7月	91.7	1.3	-4.7	1,584	3.3	-4.1	455	9.9	29.3	153.8	-19.3
8月	92.1	-4.8	-8.3	1,333	4.4	-4.2	368	7.5	11.5	157.2	-4.7
9月	86.4	-0.7	-3.5	1,317	-30.0	-36.0	457	4.3	-1.7	227.2	27.4
10月	87.1	1.3	-2.0	1,127	-30.2	-38.2	420	10.4	16.7	127.6	-18.5
11月	90.2	1.8	2.5	1,471	-13.4	-21.4	392	3.7	13.6	69.7	-20.7
12月	107.1	1.7	-2.9	1,528	-10.2	-17.5	449	4.2	-9.3	57.6	-48.8
2022年1月	100.6	3.0	-1.8	1,485	-12.5	-15.2	454	2.1	59.9	72.0	16.5
2月	84.2	0.5	-2.7	1,403	-18.6	-25.8	364	6.3	8.3	79.1	-35.9
3月	85.2	2.1	-0.2	2,106	-14.8	-16.4	353	6.0	50.9	181.7	-9.3
4月	86.5	4.6	2.9	1,171	-15.0	-24.8	389	2.4	-16.0	189.2	-35.5
5月	86.8	9.1	-1.3	1,071	-16.7	-20.4	375	-4.3	14.3	198.0	19.0
6月	87.6	1.9	-4.5	1,344	-15.8	-11.8	344	-2.2	-15.1	172.7	2.7
7月	91.0	3.3	-0.8	1,428	-13.4	-9.8	358	-5.4	-21.3	145.3	-5.5
8月	93.7	4.3	1.7	1,184	-13.3	-11.2	436	4.6	18.5	176.8	12.5

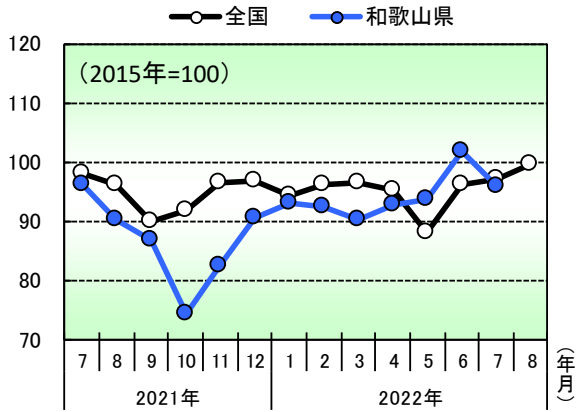
(注1)鉱工業生産指数、有効求人倍率は季節調整値[ただし、年次値は除く]

(2022年10月3日に取得可能な資料より作成)

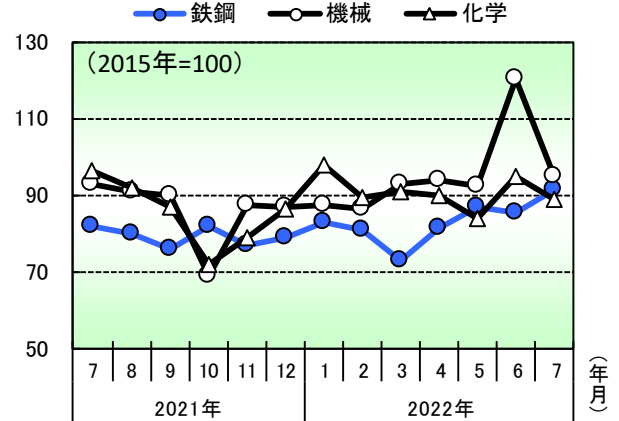
(注2)「充足率」とは、事業者が希望通りの人員数を確保できるかどうかを数値で表したものであり、数値が低いほど、人材の確保が難しい。

※百貨店・スーパー販売額、新車登録台数、新設住宅着工戸数、公共工事請負金額の各グラフは前年同月比を表しています。

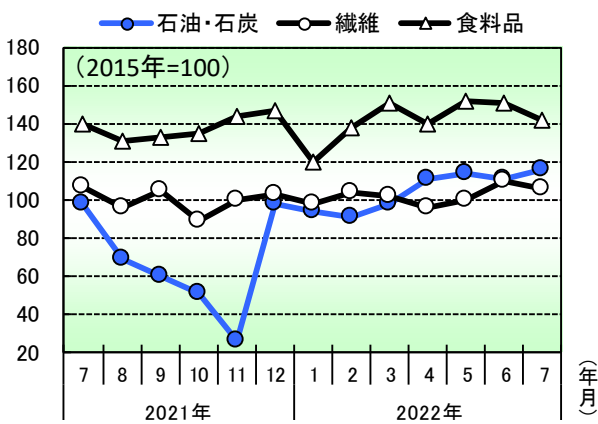
### 鉱工業生産指数



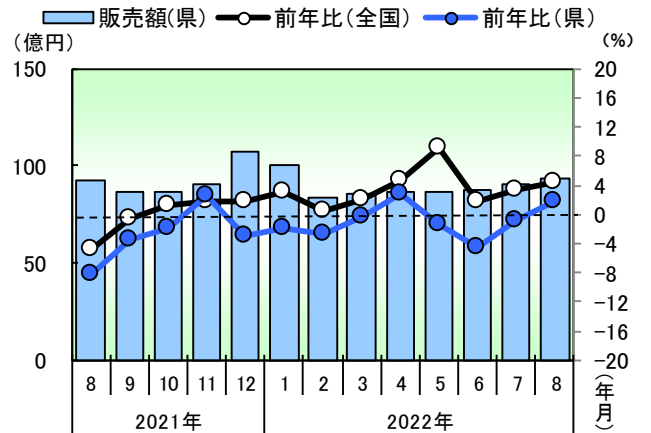
### 鉱工業生産指数(和歌山県)



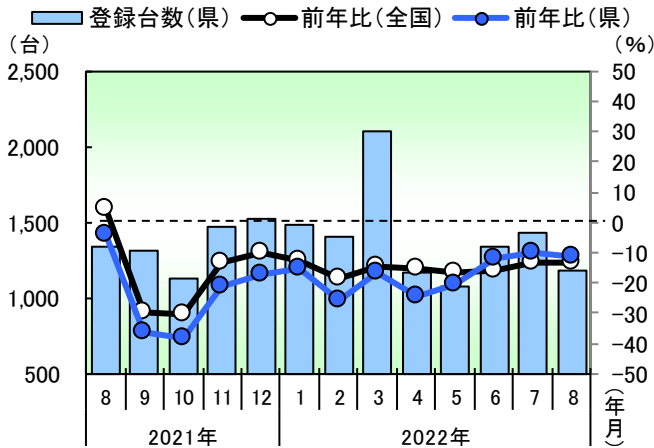
### 鉱工業生産指数(和歌山県)



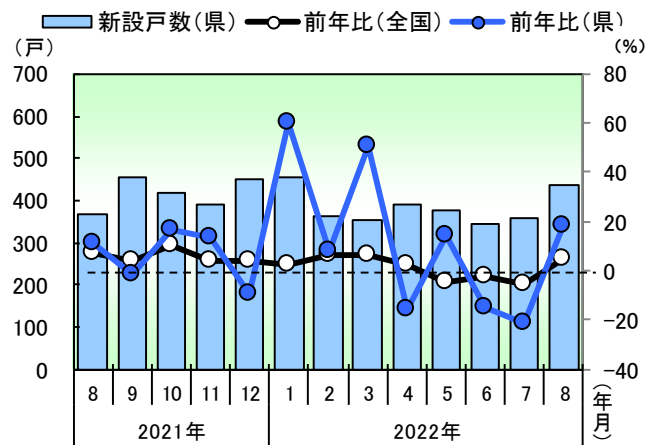
### 百貨店・スーパー販売額



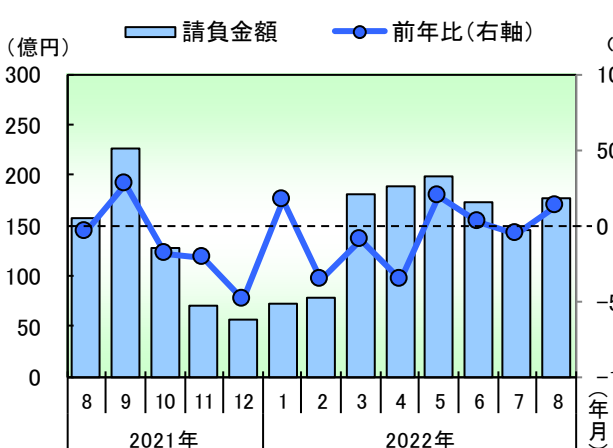
### 新車登録台数



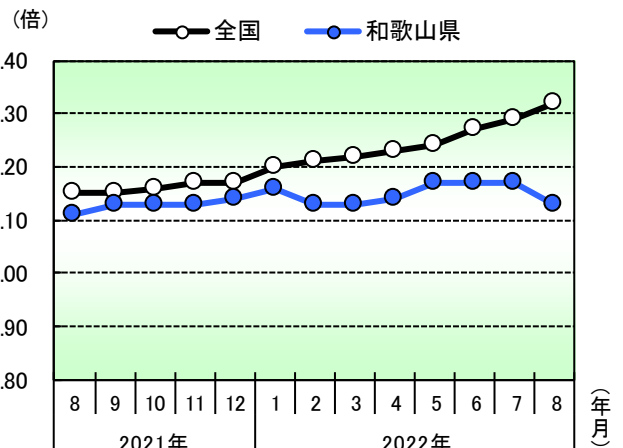
### 新設住宅着工戸数



### 公共工事請負金額(和歌山県)



### 有効求人倍率



## V 特集アンケート

### 《調査項目》

#### 【「2022 年度における県内事業者の賃上げ」について】

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| ① 非正規雇用の賃金単価の増減 | ② 夏季賞与の支給状況 |
| ③ 夏季賞与の増減       | ④ 正規雇用者数の増減 |
| ⑤ 非正規雇用者数の増減    | ⑥ 総人件費の増減   |
| ⑦ 今後の賃上げ余力      |             |

#### 【「価格転嫁の状況」について】

- ⑧ 販売価格への転嫁状況

#### 【「不測の事象が多発する中での事業継続」について】

- ⑨ BCP の策定状況

#### 【「経営に関わる情報収集」について】

- ⑩ 経営に関する役立つ情報の入手先

### 《調査結果》

#### 【「2022 年度における県内事業者の賃上げ」について】

今後の賃上げ余力について「あまりない」、「全くない」が 59.8%  
商業では約 2 割が「全くない」と回答

#### 【「価格転嫁の状況」について】

6 月調査に比べて「十分転嫁できている」事業者が 13.2%まで増加（7.2 ポイント増）  
「希望の 3 割以上は転嫁できている」との事業者は 42.4%（6 月調査では 29.4%）

#### 【「不測の事象が多発する中での事業継続」について】

BCP について「策定済」の事業者は 12.0%まで増加（4 年前調査では 6.7%）

#### 【「経営に関わる情報収集」について】

役立つ情報の収集先では「インターネット」が 42.4%で最多  
「テレビ・新聞・雑誌」、「同業・異業種の経営者等」が後に続く

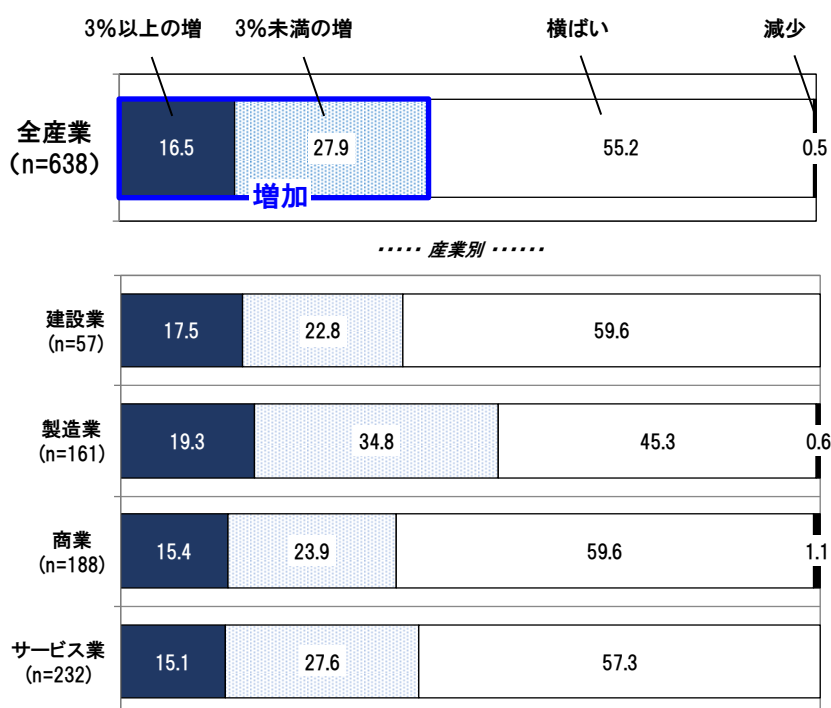
【「2022年度における県内事業者の賃上げ」について】

① 非正規雇用者の賃金単価の増減（3月末比）

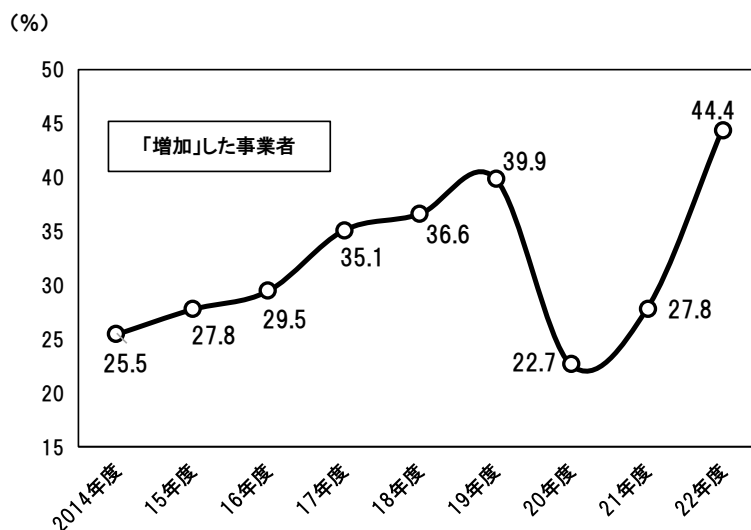
「増加」事業者が44.4%を占め、2014年度以降では最多  
製造業では「増加」が54.1%を占める

調査時点における非正規雇用者の賃金単価の増減（3月末比）を質問したところ、44.4%の事業者が「増加」と回答した。「増加」事業者の割合は、2014年度以降で最も高くなっている。業種別では、化学製品製造業、鉄鋼・金属製品製造業、機械・機械部品製造業、食料品製造業などの製造業で「増加」との回答が過半数を占めた。

■ 図表①-1 非正規雇用者の賃金単価の増減



■ 図表①-2 非正規雇用者の賃金単価の増減（過去調査との比較）



## 【「2022年度における県内事業者の賃上げ」について】

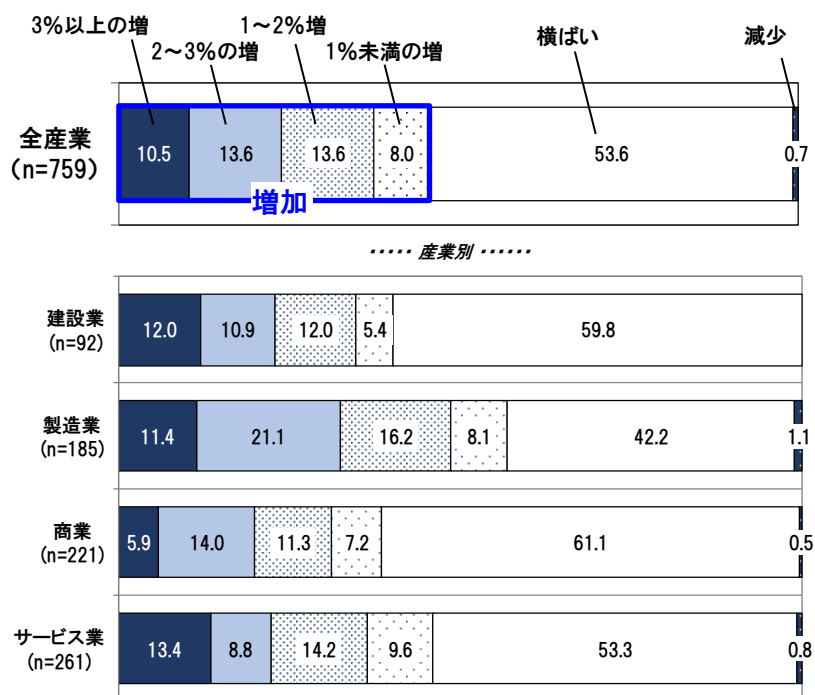
### (参考) 正規雇用者の給与額の増減 (3月末比)

**正規雇用者の「賃上げ」実施事業者は45.7%と約半数**  
**ただし、コロナ禍前に比べて10ポイント程度低い**

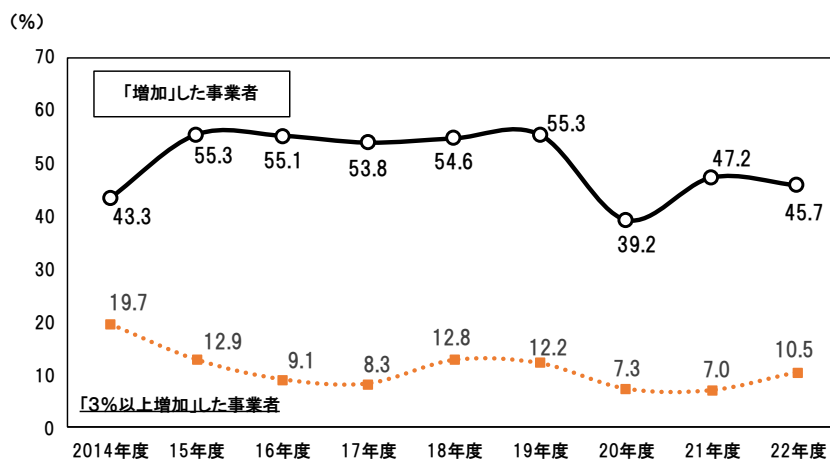
6月に実施した「景気動向調査」において、正規雇用者の給与額（賞与・残業代は含まない）を3月末比で比較した場合の増減を質問した。その結果、「3%以上の増」（10.5%）を含む「増加」（賃上げ実施）の事業者は45.7%と約半数を占めた。ただし、過去の調査結果と比較した場合、「賃上げ」実施事業者の割合は昨年から1.5ポイント低下しており、コロナ禍前（2019年度）の水準（55.3%）に比べて10ポイント程度低い。

■ 図表 正規雇用者の給与額の増減 (3月末比)

(※) 給与額には賞与・残業代は含まない



■ 図表 正規雇用者の給与額の増減 (過去調査との比較)



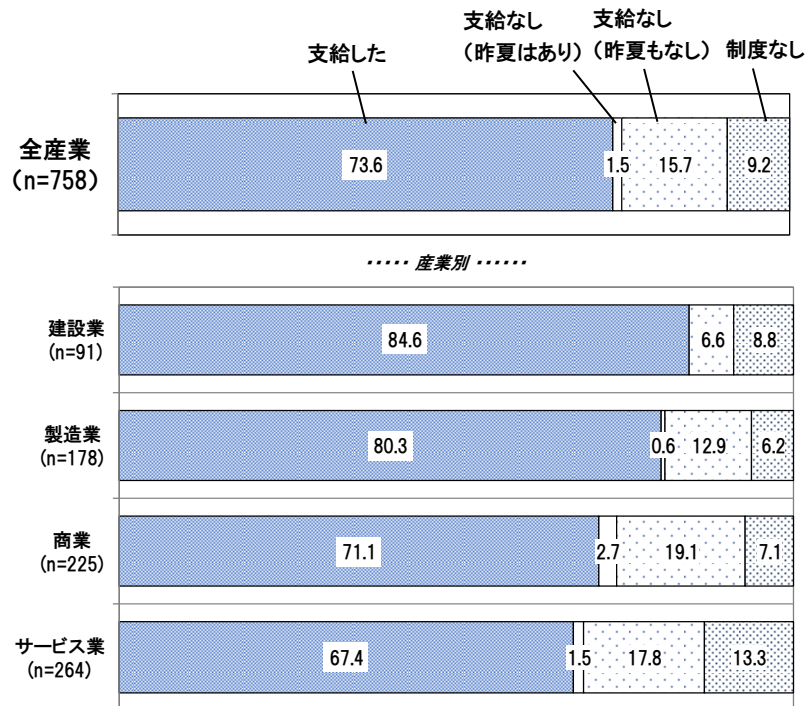
【「2022年度における県内事業者の賃上げ」について】

② 夏季賞与の支給状況

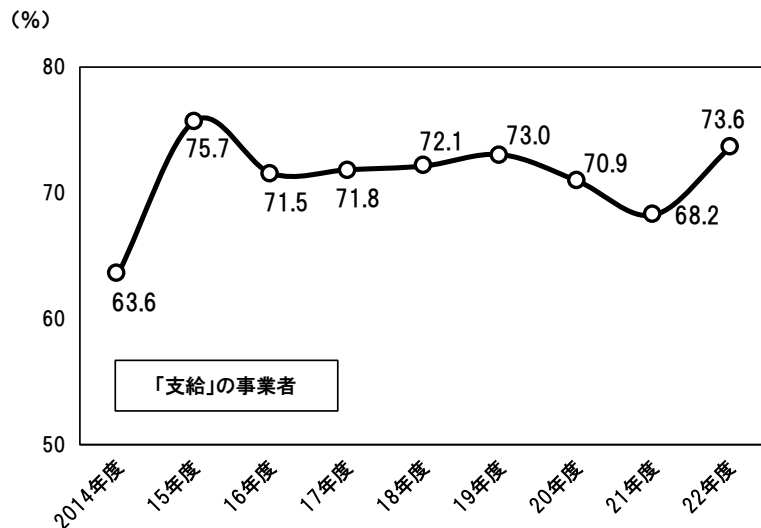
**「支給した」は73.6%**  
**3年ぶりに増加に転じた**

夏季賞与の支給状況について質問したところ、73.6%が「支給した」と回答した。「支給した」とする回答は3年ぶりに増加に転じ、回答割合としても2014年度以降では2番目の高い水準にある。

■ 図表②-1 夏季賞与の支給状況



■ 図表②-2 夏季賞与の支給状況（過去調査との比較）



## 【「2022年度における県内事業者の賃上げ」について】

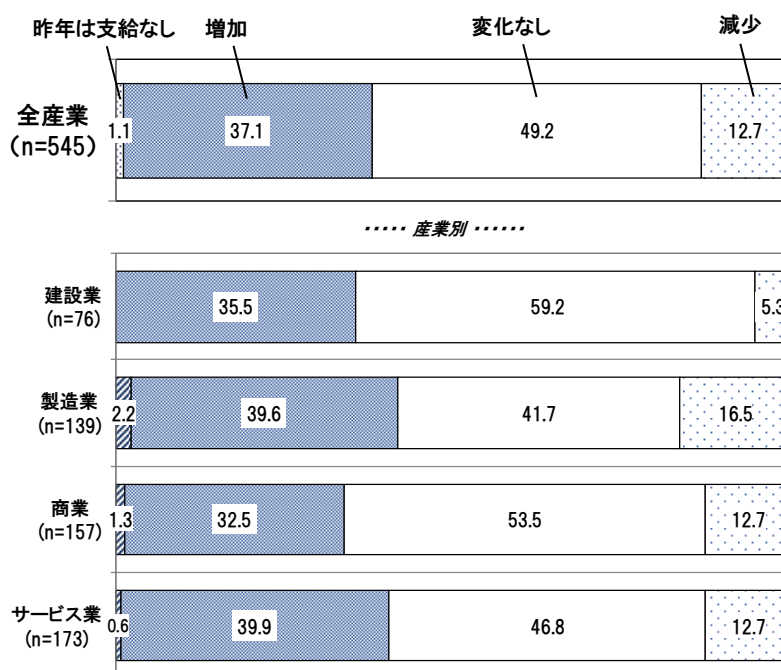
### ③ 夏季賞与の増減

「増加」は37.1%

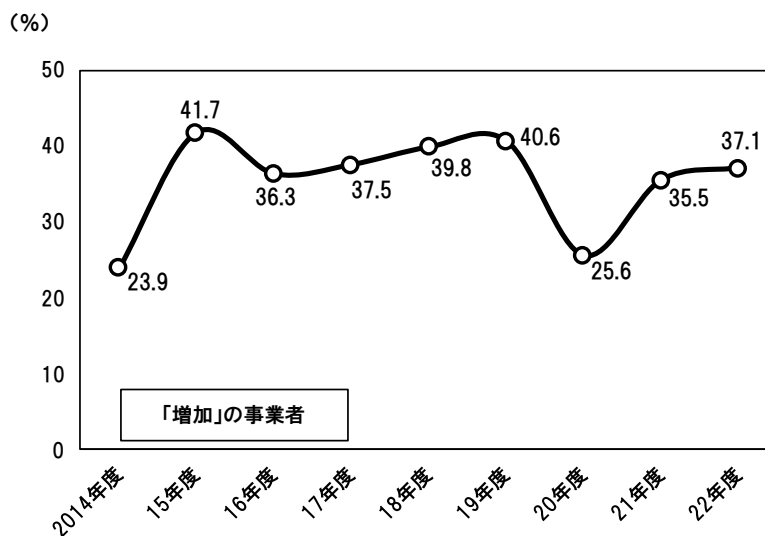
2年連続で「増加」が増えた

夏季賞与を支給した事業者に対して、昨年度と比較しての増減を質問したところ、「増加」した事業者は37.1%となった。昨年度に比べて1.6ポイント増加している（増加は2年連続）。

■ 図表③-1 夏季賞与の増減



■ 図表③-2 夏季賞与の増減（過去調査との比較）



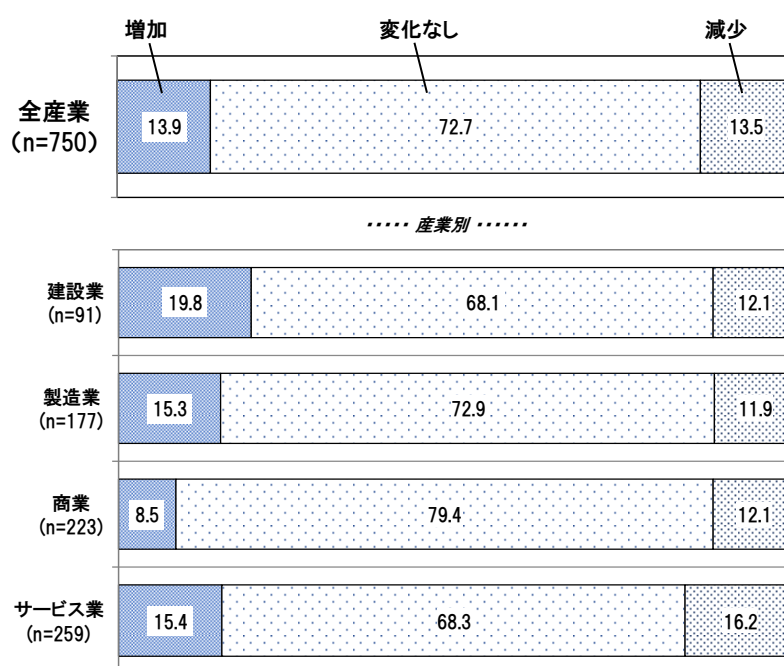
## 【「2022年度における県内事業者の賃上げ」について】

### ④ 正規雇用者数の増減

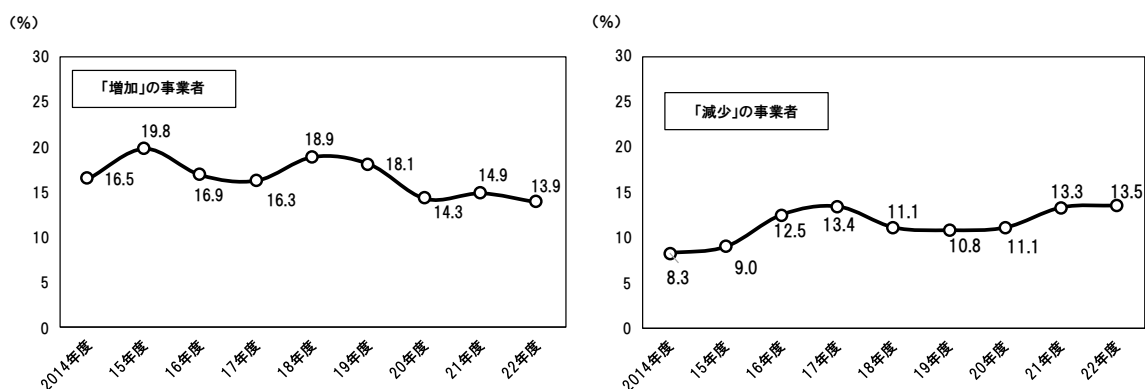
「増加」、「減少」とともに約1割  
前年調査から大きな変化はなし

調査時点における正規雇用者数の増減（3月末比）を質問したところ、「増加」事業者は13.9%、「減少」事業者は13.5%だった。前年調査と比較した場合、「増加」事業者は、製造業や商業で減少しており、コロナ禍前（2019年度）の水準に比べて、全体では約4ポイントほど回答割合が低い。

■ 図表④-1 正規雇用者数の増減



■ 図表④-2 正規雇用者数の増減（過去調査との比較）





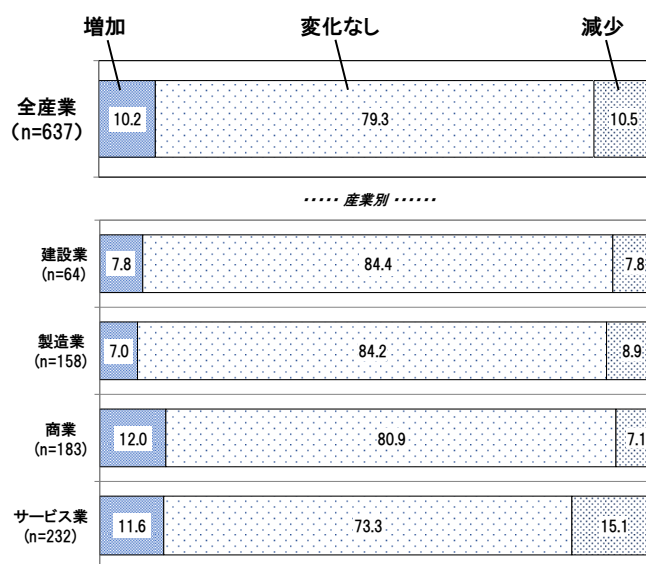
## 【2022年度における県内事業者の賃上げ】について

### ⑤ 非正規雇用者数の増減

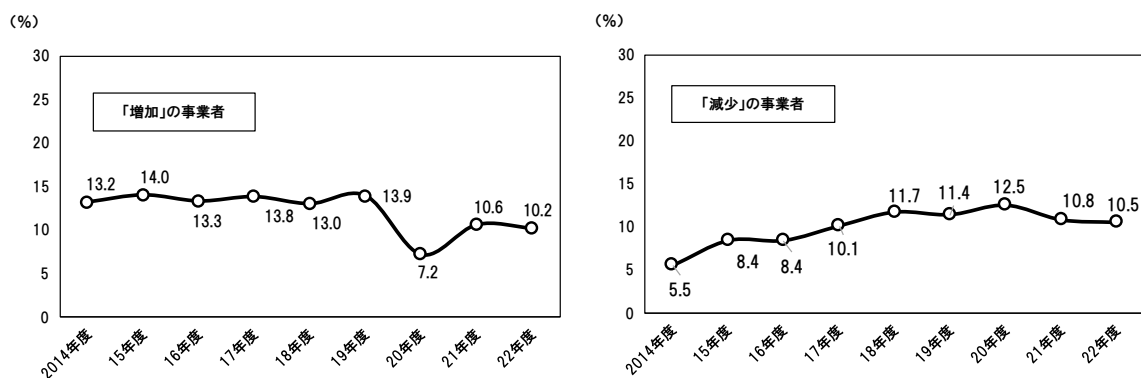
「増加」、「減少」とともに約1割  
前年調査から大きな変化はなし

調査時点における正規雇用者数の増減（3月末比）を質問したところ、「増加」事業者は10.2%、「減少」事業者は10.5%だった。前年調査と比較した場合、「増加」事業者は、サービス業（特に旅館・ホテル業）で増える一方、製造業や建設業では減少した。また、「減少」事業者についても、サービス業（飲食業、医療・福祉）で回答割合が前年調査に比べて上昇している。

■ 図表⑤-1 非正規雇用者数の増減



■ 図表⑤-2 非正規雇用者数の増減（過去調査との比較）



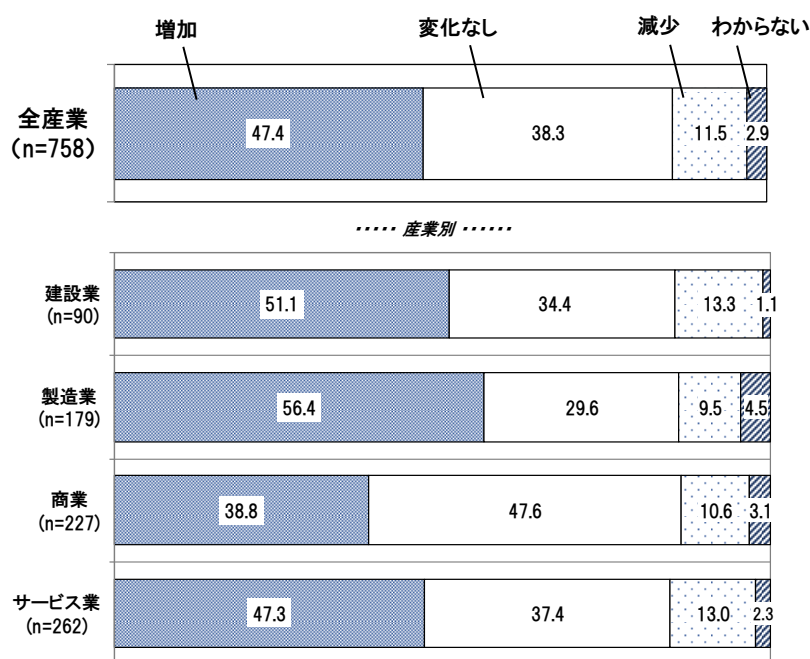
## 【2022年度における県内事業者の賃上げ】について

### ⑥ 総人件費の増減

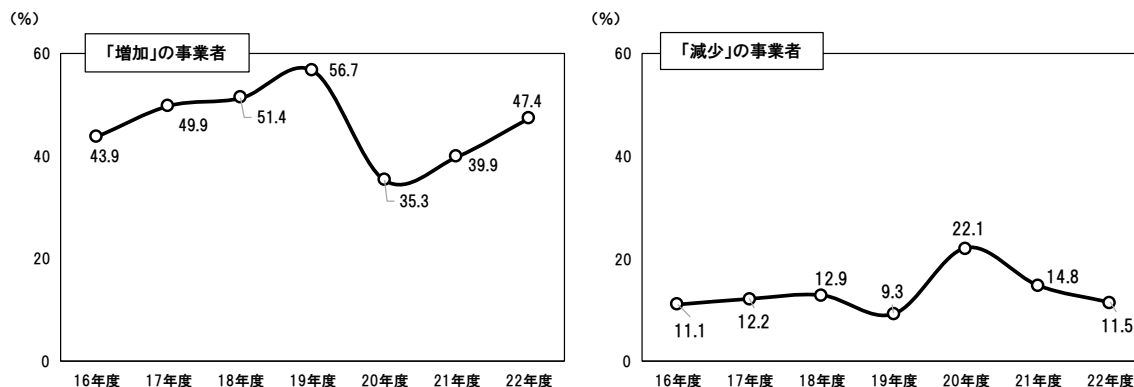
「増加」は47.4%  
 昨年度に比べて7.5ポイント増えた

総人件費（福利厚生費含む）の増減（前年比）について質問したところ、「増加」したとする事業者は47.4%となった。昨年度に比べて「増加」との回答は7.5ポイント増えた。建設業、製造業を中心に「増加」との回答が増える一方、商業では増加の動きが弱い。

■ 図表⑥-1 総人件費の増減



■ 図表⑥-2 総人件費の増減（過去調査との比較）



## 【2022年度における県内事業者の賃上げ】について

### ⑦ 今後の賃上げ余力

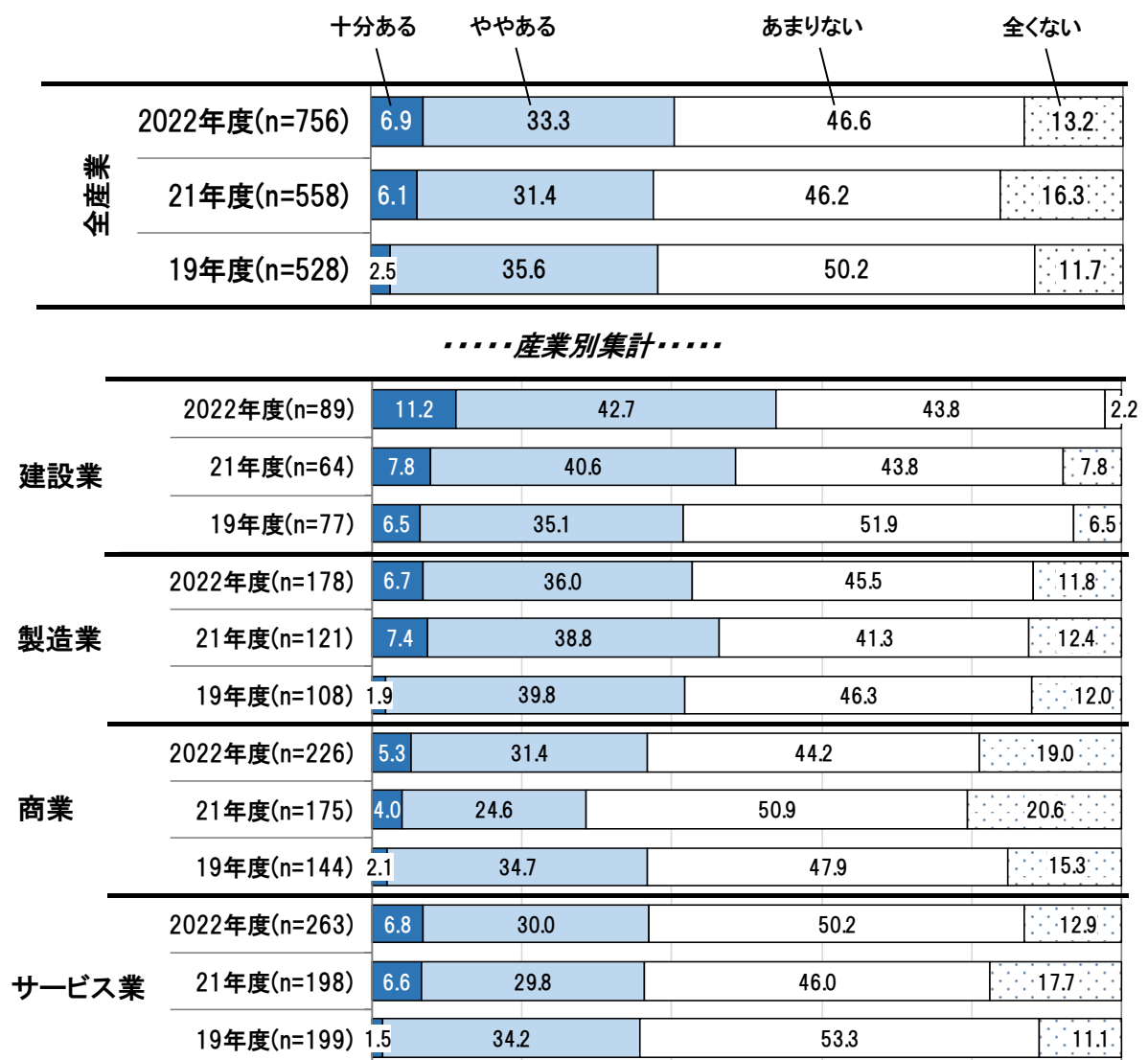
「あまりない」、「全くない」が約6割を占める  
商業では約2割が「全くない」と回答

今後の賃上げ余力について質問したところ、「あまりない」(46.6%)と「全くない」(13.2%)との回答を合わせると59.8%を占めた。過去調査と比べて大きな変化は見られなかった。

#### ○ 建設業では「あまりない」、「全くない」との回答がやや減少傾向にある

産業別に見た場合、「あまりない」、「全くない」との回答は、建設業で緩やかな減少傾向が見られる一方で、製造業では増加した。また、商業では「全くない」との回答が約2割を占めており、他産業に比べて多くなっている。

■ 図表⑦ 今後の賃上げ余力



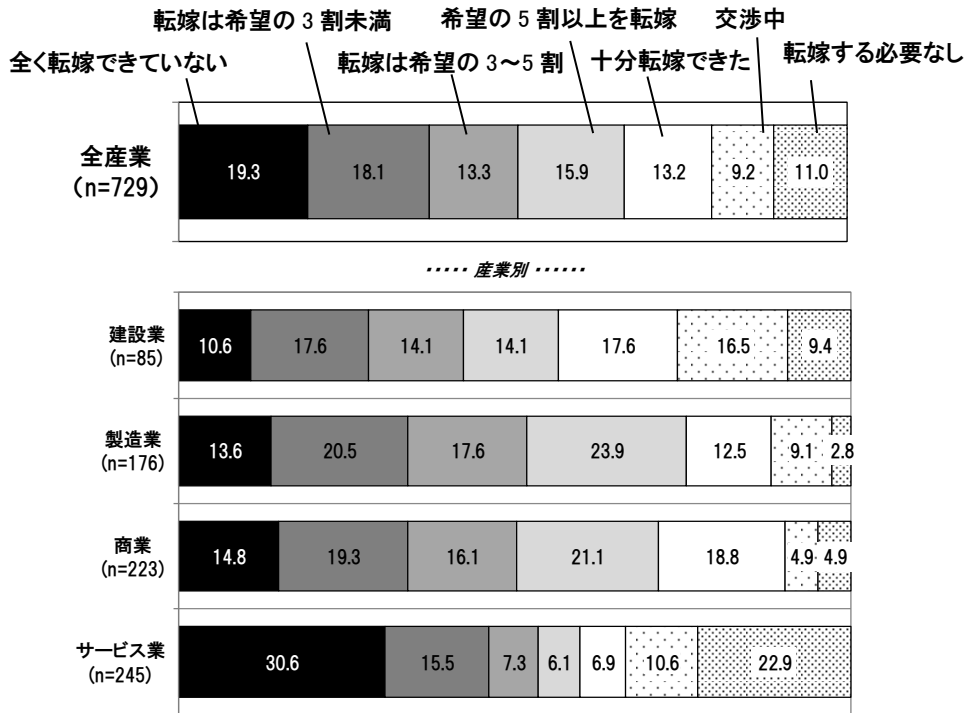
【「価格転嫁の状況」について】

⑧ 販売価格への転嫁状況

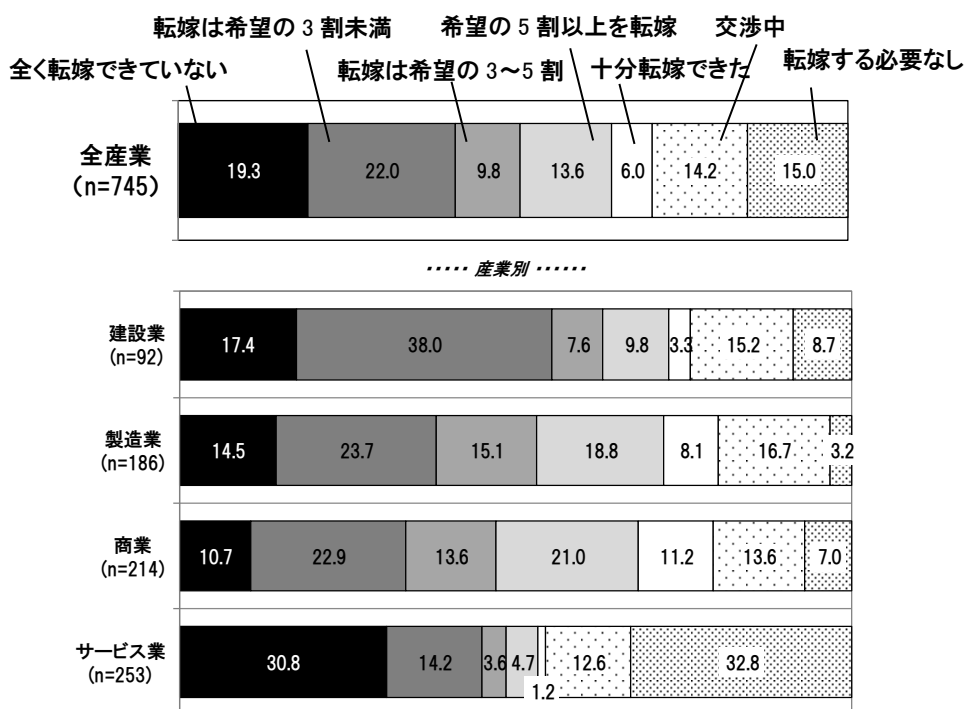
「希望の3割以上は転嫁できている」との事業者は42.4%

6月調査の29.4%から13ポイント増

■ 図表【今回調査（9月実施）】販売価格への転嫁状況



■ 図表【前回調査（6月実施）】販売価格への転嫁状況



【「不測の事象が多発する中での事業継続」について】

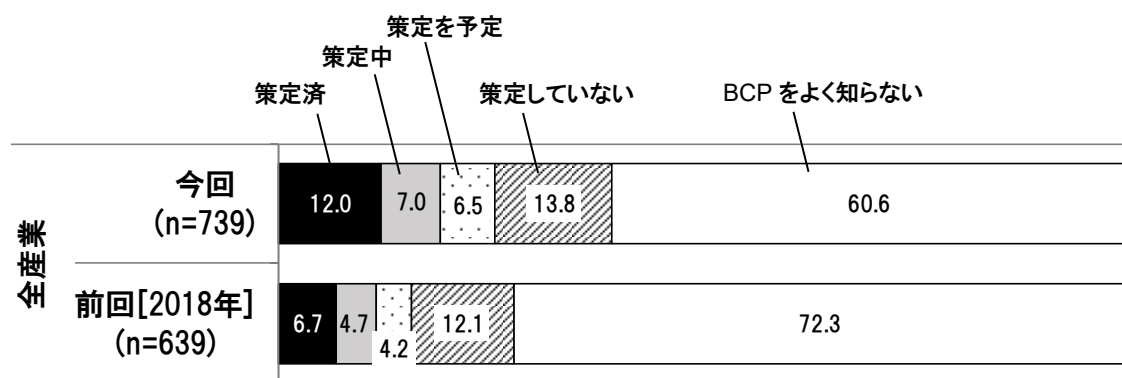
⑨ BCP の策定状況

**「策定済」の事業者は 12.0%**  
**4年前の前回調査に比べて 5.3ポイント増**

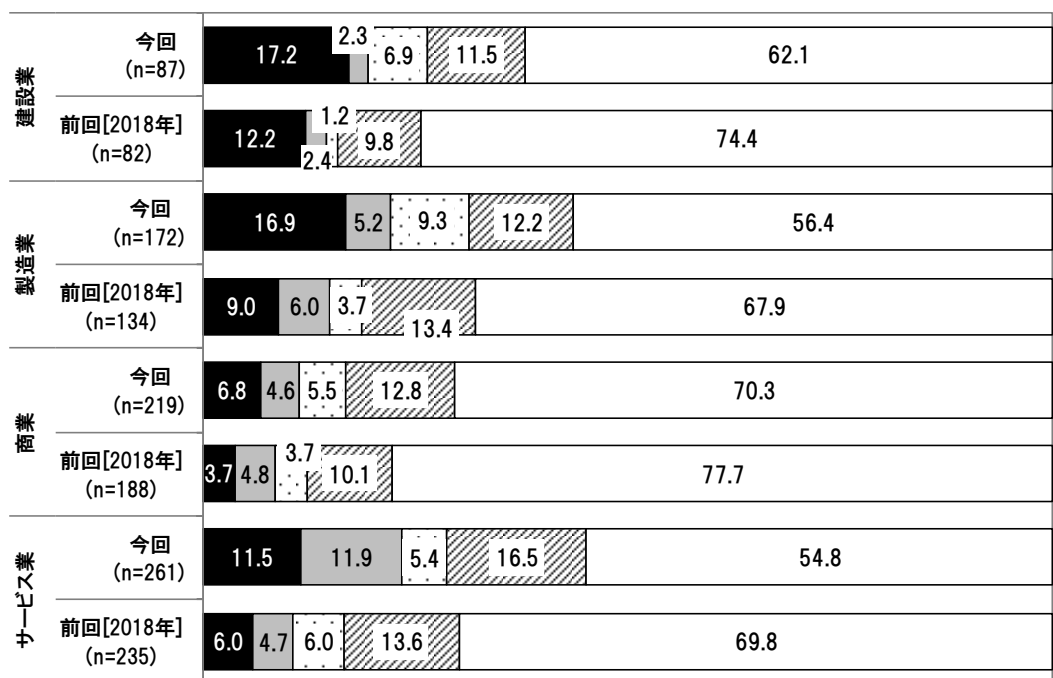
BCP (Business Continuity Plan、事業継続計画) の策定状況について質問すると、「策定済」は 12.0%、「策定中」は 7.0%、「策定を予定」は 6.5%だった。2018 年に実施した前回調査に比べて、「策定済」の事業者は 5.3 ポイント増加しており、また、「BCP をよく知らない」とする事業者の割合は 60.6%まで低下している。

BCP とは、地震、風水害、鳥インフルエンザ等により、事業の継続にリスクが生じた際、重要業務が中断しないように事前に策定する行動計画のこと。防災対策だけでなく、被災後の事業の継続・早期復旧を目指す。

■ 図表⑨ BCP の策定状況



..... 産業別集計 .....



## 【「経営に関わる情報収集」について】

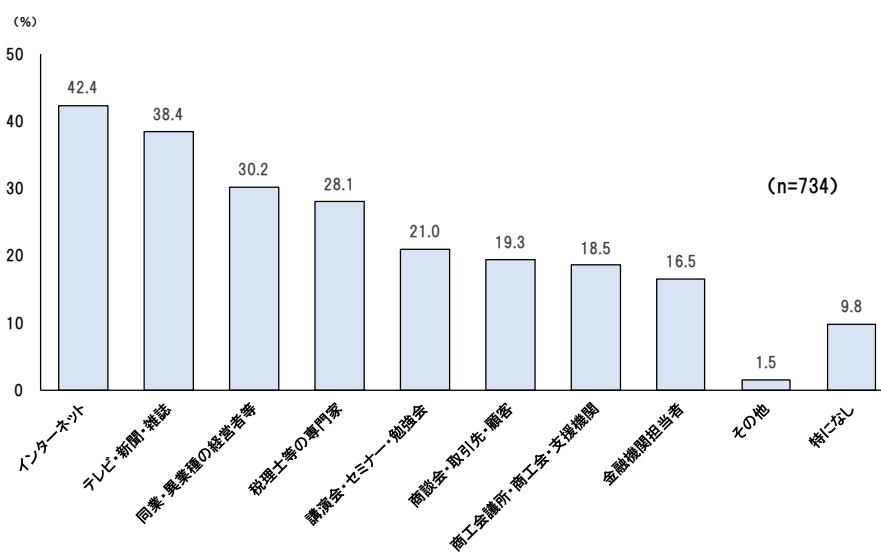
### ⑩ 経営に関わる役立つ情報の入手先

「インターネット」が42.4%で最多  
「テレビ・新聞・雑誌」、「同業・異業種の経営者等」が続く

経営に関わる役立つ情報の入手先について質問したところ、「インターネット」との回答が42.4%で最も多く、「テレビ・新聞・雑誌」(38.4%)、「同業・異業種の経営者等」(30.2%)を上回った。

2013年に中小企業基盤整備機構が実施した「中小企業経営者の経営情報の収集・活用に関する実態調査」では、経営者が情報収集する場所としては、「新聞」が82.0%で最も多く、テレビ(62.0%)、雑誌(45.7%)、ホームページ(43.3%)が続いている。約10年の間に、インターネットを活用した情報収集が主流となり、また、「役立つ情報」が得られる場所としても定着していることがわかる。

■ 図表⑩ 経営に役立つ情報の入手先



## おわりに

### ○ 7～9 月期の景況 BSI は前回から横ばい

7～9 月期の県内景況 BSI は前回からほぼ横ばいで推移した。7 月以降、新型コロナ感染が再び拡大し、8 月には 1 日当たりの新規感染者数が過去最高を更新した。ただし、行動制限は発出されず、お盆の帰省客を含めて、8 月中旬の人出状況は前年を上回った。業種によって業況に明暗は見られるものの、以前のような感染拡大期における業況の大幅悪化は見られなかった。「原材料価格高騰」への懸念は強いが、一部で販売価格への転嫁の動きに進捗が見られる。

### ○ 10～12 月期（見通し）の景況 BSI は上昇を見込む






10～12 月期（見通し）の県内景況 BSI は 1.7 ポイント上昇。サービス業を除く全ての産業で景況 BSI が上昇する。世界的な金融引き締めの流れの中で、世界景気の下振れリスクが高まり、急激な円安進行を背景に、物価の上昇が続いているが、全国旅行支援などの需要喚起策への期待もあり、県内景況感は改善を見込む。

### ○ 県内事業者が求める情報 ～補助金、法令・規制変更に関する情報へのニーズが強い～

今回の調査結果が示唆するように、県内企業は様々な情報提供先から、経営に必要な経済情報を取得している。具体的にどのような情報を収集しているのかを自由記述形式で質問したところ、「補助金の動向」、「法令・規制変更に関する情報」、「販路に関する情報」、「同業他社の動向」といった意見が多くみられた。また、昨今の物価上昇を受けて、仕入材・仕入商品の価格見通しなどへの関心も強まっている。世界情勢など地政学的リスクに関する情報への取得意向も高まっており、弊所としては、このような情報ニーズを踏まえながら、引き続き、情報発信に注力していきたい。

※1 景況判断における矢印について


表紙における「自社景況判断」では、各 BSI 値の変化を矢印を使用して表現している。この矢印の向きは、当研究所で以下のような範囲設定で判断したものである。

矢印の向き					
BSI値前期差	▲5.0以下	▲4.9～▲0.6	▲0.5～0.5	0.6～4.9	5.0以上

※2 地域区分について

和歌山県内の地域区分については、以下の表の通り、地域分けを行った。

地域名	該当市町名
和歌山市	和歌山市
紀北地域	海南市、紀美野町、岩出市、紀の川市 橋本市、かつらぎ町、九度山町 高野町
紀中地域	有田市、湯浅町、広川町、有田川町 御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町 みなべ町、日高川町
紀南地域	田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町 新宮市、那智勝浦町、太地町、古座川町 北山村、串本町



**一般財団法人 和歌山社会経済研究所**

和歌山市本町2丁目1番地 フォルテワジマ6階

TEL (073) 432-1444

ホームページURL <http://www.wsk.or.jp>

担当 : 藤本迪也

\* 「景気動向調査」は上記ホームページでもご覧いただけます。